

日體人



瀧澤康二

同窓会と母校の更なる進化に向けて……2

松浪健四郎

日体大の近未来と現実……4

谷釜了正

日本体育大学創立125周年の足跡(抄)

——日本における比較オリンピック史の試み……6

今村 裕

教職員全員がプロの目で挑戦

——スピードとけじめをもって……7

学友会活動報告

日体大バレーボール部

チームづくりの〈伝統〉と〈継承〉……8

平成26年度

日本体育大学体育研究発表実演会……10

同窓会運営の基本方針……12

同窓会支部活動報告……14

同窓会と母校の更なる進化に向けて



日本体育大学同窓会会長 瀧澤康二

ります。同窓会と致しましては、この創立125周年を機に、同じ釜の飯を食った者同士がお互いに懇親を深め、より一層、絆を強めていけるような場づくりをしたいと考えています。是非、身近な友人をお誘いし、2016年内に母校を訪ねてください。同窓会としましてはそのことを容易にするために次のようなことをご提案申し上げたく存じます。

つまり、皆さんが定期的

に開催されておられる同期会やOB・OG会をはじめ、「～会」等について早急にご検討いただき、それらの会合を2016年に東京近郊で開催していただきたいということです。そして、その際、例えば「創立125周年記念～OB会」と銘を打って記念ムードを高めていただきたく存じます。また、「125周年記念ロゴ」の活用も大歓迎です。

とにかく、この機会に同窓会が元気を取り戻し、母校の益々の繁栄に貢献しようではありませんか。2016年には、年間を通じて卒業生全員に、新装となった世界に誇れるスポーツ科学の総合大学たる母校をお訪ねいただきたく切に願うものです。

また、お訪ねいただけたときには心に残る記念の何かを準備したいとも考えています。そのことをも含め、同窓生全員にご寄付をお願いし、その準備も進めているところです。その折にはご協力のほどを切にお願い申し上げます。

目覚めよ、日体魂！

私たちは、125年という歳月をどのように捉えたらよいのでしょうか？ ただ単に「一世紀と四半世紀だから祝いましょう」だけではあまりにも寂し過ぎると思います。私はこの間、母校で受け継がれてきた伝統と日体魂について考えてみたいと思います。

日体大の真の伝統、それは「日體人」から取り除くことのできない身体に滲み込んだ同窓生共通の「日体魂」そのものではないでしょうか。

3年半前に母校の設置者たる学校法人日本体育大学に松浪健四郎氏を理事長としてお迎えすることができました。理事長は就任後、間髪を容れることなく大改革に取り組みました。その姿を見た関係者は誰もが、「一気に伝統が壊されるのではないか」と思ったに違いありません。私も一時は、ハラハラ・ドキドキしましたが、まったくその心

ご挨拶

日本全国、世界中でご活躍の同窓の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。私は、平成26、27、28年度日本体育大学同窓会会長を拝命しました瀧澤康二と申します。昭和40年の卒業です。専門は、体操とスポーツ哲学で、長年母校で教鞭を執らせていただきました。

先ずは、本誌3号が3万部から6万部への増刷が可能になりましたことをお伝えし、存じます。そして更に、卒業生名簿の確認整理によって卒業生全体の約75%の6万人へ直送できることになりました。このことは、同窓会の普及・発展を願う会長としてこの上ない大きな喜びであります。

みんなで祝おう、母校の「創立125周年」を！

さて、皆さんの身体の奥底には私同様、寮歌の一節に「♪ねむれる魂を醒まさんと♪」とありますように、「日体魂」が宿っている筈です。この魂が、人生のあらゆる場面で私たちを叱咤激励し、同時に得体の知れない力を与えてくれている筈です。その意味におきましても私は皆さんとともに改めて母校、日体大に深甚なる感謝の意を表したく存じます。

その日体大が2016年に創立125周年（一世紀と四半世紀）という記念の年を迎えます。創立以来、幾度もの苦難に見舞われた母校ですが耐え忍び、今日の隆盛を迎えています。誠に喜ばしい限りです。8万有余人の同窓生こぞってお祝い申し上げたく存じます。大学では2016年に向けて記念式典をはじめ、さまざまな記念事業を計画しております。同窓会と致しましてはそれらの事業の成功に向けて積極的にバックアップ（寄付金集め）をし、ともにお祝いしたく考えています。

母校は、同窓生一人ひとりにとって心のよりどころでもあ

配は無用でした。それどころか、理事長は伝統を人一倍大切にされる日体魂の持ち主だったのです。

理事長は、世田谷キャンパスに祭られている学徒出陣で尊い命を落とされた先輩諸氏の慰霊碑に、生花を一日足らずとも欠かすことのないシステムを構築されました。毎朝出勤前に必ず慰霊碑に向かって首を垂れる理事長の姿は、誰もが易々と真似のできるものではありません。私は、このような行為・行動こそ人として実に大切なことであると、改めて学びました。

極度に情報化の進んだ社会に生きる私たち現代人は、残念なことに氾濫するメディアに翻弄され、人として、更には社会人としての大事な宝をどこかに忘れ去ってしまったのではないのでしょうか。人の「人らしさ」は、常にその人の行為・行動に表れるものですが、その根底には魂があり、その魂が常に磨かれているか否かで人らしさが評価されるのだらうと思っています。

少なくとも「日体魂」は、言語で表現できるものではありません。それは、創立以来そこで学んだ人から人へと受け継がれた、そして常に研ぎ澄まされた目には見えない伝統であると考えます。たとえば、「エッサッサ」は、年を重ねるごとに微妙に変容しています。けれども、そのパフォーマンスそのものが伝統ではなく、そこに秘められた目に見えない魂こそが真の伝統であるといえるのではないのでしょうか。

私は、「日体魂」とはそのように定義づけできるのではないかと考えています。そして、その魂は同じ釜の飯を食った者同士が共有しているのだと確信するものです。その母校、日体大は大きく変容し、間もなく125周年を迎えます。この機に、みんなで日体魂を目覚めさせようではありませんか。

同窓の「和」を広げよう!

孟子は「天・地・人」、つまり「天の時は地の利に如かず、地の利は人の和に如かず」ということばを遺しています。これは、社会において何よりも「人の和」が大切であるという意味にもとれます。このことばを大切にされた戦国時代の越後の武将、上杉謙信、そしてその愛弟子であった直江兼続は戦いに敗れたことがないと伝えられています。また、近年では、次々と会社経営で多大な成果を収めてこられた稲盛和夫氏も「人の和」を殊更大切にされている人です。

「人の和を大切にしなければならない」という「ことば」そのものについては誰もが理解されているのだらうと思っています。しかし、残念ながらそれはただ言語としての認識であり、実態としての認識ではありません。具体的には「人の和」というものは人の心と心が通じ合うという意味

であろうということです。そこには、お互いどんなことでも心の内を打ち明けられる関係が必要です。つまり、そのもとになる信頼関係が重要であるということです。

私は、その最も有効な手段が同窓会であると考えています。しかし、同窓会は目的ではありません。同窓会は、会則に謳われていますように、同窓同士の懇親を深め、ともに研鑽することと、母校の発展に寄与するための手段であるということです。その同窓会が今、大きな曲がり角にあります。そこから脱皮するために数年前から校友会組織が提案され、実現しつつあります。

ワンファミリー構想と校友会の関係

平成24年1月1日付発行の日体広報第88号の巻頭言において松浪理事長は日体ファミリー化について次のように述べ、関係各位の協力を求めています。

『日体ファミリー化』は、設置校の共存共栄のための合理的な発想です。スケールメリットを計算すれば、かなり多方面にわたって事業の拡大、教学面での補完ができることと認識しております。」

松浪理事長は、理事長就任以来、法人事務局を含め、設置校全体の経費削減と教育・研究活動の合理化、とりわけ質の向上と経営の永劫的安定を意図した事業の拡大に向けて積極的な姿勢でリーダーシップを発揮されてこられました。

理事長が提唱するワンファミリー構想はその意味において今後も、法人を含め、設置校全体が更なる発展を遂げるための崇高な構想であると認識できます。したがって、このことについては私たち同窓会関係者全員で理解を深めて早急に協力体制を築かなければならないと考えています。

私は、とりわけ校友会組織をこのワンファミリーの理念を実現するための重要な手段として位置づけるべきと考えています。つまり、そこに位置づくすべての会員が共存共栄するための重要な組織体でなければならないということです。

私たちの目指す理想を富士山の頂上であると考えれば、校友会各下部組織のそれぞれが自ら築いた登山道を軸にしなが、お互いに助け合い、知恵、情報を交換しつつ、更に安全で合理的な登山道を開拓して、それぞれがスムーズに頂上を目指すことができるように努力していくべきでしょう。私は、その意味においてのみ校友会の存在理由が成り立つものと考えます。

母校、日体大はまだまだ進化し続けます。否、進化し続けなければなりません。そのためには同窓の皆様のご理解とご協力、そしてより一層のご支援を必要としています。私たち同窓会も日体ファミリーの一員として母校とともに進化しようではありませんか。

日体大の近未来と現実



学校法人日本体育大学 理事長
松浪 健四郎

魅力あるキャンパス

約1万名の受験生や保護者が本学を訪れる。「アンケート調査」によれば、「素晴らしいキャンパスなので、日体大に入学したい」、「体育大学のイメージと異なった雰囲気をもつ学問の府らしいキャンパスに驚いた」等の声が多数寄せられている。キャンパス造りに成功している印象をもつが、まだまだ名門にふさわしいキャンパスにせねばならない。

名古屋の歌舞伎劇場である由緒ある御園座から高価な緞帳を寄付していただいた。文化勲章を受章された片岡球子画伯（1905-2008年）原画による『富士に献花』である。金糸をふんだんに使用した綴れ織り製で、京都・川島織物セルコンが製作した名品。深沢のメインアリーナにステージ壁面を飾るタペストリーとして設置した。さすがに大きな富士に圧倒されるが、手織りのぬくもりが伝わってくる。この名作もキャンパスの目玉となろうか。

東京・日本橋の「三越デパート」が創業100年を迎えられたのを機に、シンボルである三越のライオン像（イギリス製）を1体、深沢キャンパスに寄付していただくことになった。このライオンも名作である。本学のシンボルマスコットがライオンであることから、三越本社と交渉した結果、寄付して下さるといふ。

日体大が名門という評価をいただいているからこそ実現したと想起する。このライオン像は、教育研究棟の玄関前に設置し、学生たちのパワースポットにしたいと考えている。

また、奄美大島の同窓会から30本の蘇鉄が2015年春に寄贈されることとなった。深沢の左右の建物の前に植える予定である。蘇鉄は聖なる植物、なかなか成長しないが、創立200周年を迎える頃には立派になっているにちがいない。奄美大島、徳之島の卒業生のみなさんに感謝したい。

創立125周年を迎えようとする日体大のキャンパスは、風格があり、魅力的なものでなければならぬのは多言を

まつまでもなかろう。そのための努力を今後も重ねて行きたいと考える。何よりも、学生たちの感性を磨き、創造力を盛んにするためには、キャンパスには諸々の装置が求められる。日体大のキャンパスは、美術館・博物館なみの作品を揃え、他大学と異なる「美は真実」を謳うものにしたと思う。

5階の中会議室には、ふすま大の朝鮮刺繍があり、

大会議室には、同じ大きさの刺繍が3点も飾られている。立派の一言につきるばかりか、その美しさに腰を抜かす。この4点は、日体大が朝鮮民主主義人民共和国との交流を開始し、両国の友好親善に尽力したと感激して下さった朝鮮大学校同窓会副会長の裴光幸氏から贈呈された名品である。

朝鮮刺繍の歴史は古く、やがて日本にも伝えられたが、その迫力と美しさに感激していただけるにちがいない。高価であると同時に、その価値を永久に伝えて行く義務が日体大にはあろうか。学生たちの美意識を高める美術品、廊下であろうが、あちこちに設置して、日体大の重厚さを示したいものである。

ぜひ、母校を訪問され、日体大の大変化を楽しんでいただければ幸いである。ちなみに、新校舎建設にあたり、各位から御寄付をいただいたが、その約1.5億円は、すべて大学内に設置されている美術品購入にあてたことをも御報告させていただきます。

2020年のオリンピック

東京オリンピック・パラリンピックを控えて、政府は世界中のスポーツ指導者やアスリートを招いて、スーパーコーチの養成と競技力向上の手助けをします。その「スポーツ・アカデミー形成支援事業」で、筑波大、鹿屋体育大、そして唯一の私学として日体大が政府より委託された。大きな予算のつく事業、たいへん名誉なことでありましょう。

国家の平和構築事業に日体大が選出されましたのも、歴史を重ね、伝統を継承しながら御活躍されました先輩のみなさまのおかげであります。感謝させていただかねばなりません。

オリンピック対策事業の一環として、各自治体と連携してスポーツ振興のための協力を行なうこととしました。い

いわゆるオリンピック教育で、オリンピックは東京都民だけのものではなく、全国民参加のものにすべきと考え、日体大が協力するものです。本学には安く宿泊できるゲストハウスがあり、施設があり、何よりもオリンピックが揃っています。これらの財産を、広く全国の興味ある自治体の方々に利用していただくというものです。

すでに岡山県的美作市、愛知県を皮切りに2015年中には20を超す自治体と協定を結ぶこととなります。日体大ならではの事業、大きな社会貢献と評価されるでしょうし、地方再生の起爆剤にしていだければと思う。同窓のみなさんにおかれましては、関係深く理解のある自治体と交渉して、推薦していただければ幸いです。

パラリンピック対策として、法人は北海道網走市に「日本体育大学付属特別支援高等学校北海道学園」（略称・日体大北海道高）を2017年に開校します。スポーツを基軸に、農作業での労作教育、絵画・彫刻・書道・陶芸等の情操教育を3本柱にした特別支援高校です。網走の大自然の中で、私学初の障がい者を対象とした高校を設置します。

北海道のみならず、全国から知的障がいのある生徒を集め、社会貢献となろう教育を実施します。女満別空港から20分の地で、羽田空港から毎日6便があり、それほど不便はありません。パラリンピック選手を養成するにとどまらず、インターハイ等でも活躍していただけるよう研究中です。いいアイデアを寄せていただければと存じます。

昨年アジア大会には、OB・OG・現役合わせて77名の日本代表選手を日体大は輩出した。東京オリンピックにも、70名以上の選手を送る計画をたて、すでに設置高校と連携をとって強化に着手している。とくに大学では女子選手の強化にも本腰を入れて、期待に応える使命があると認識している。女子レスリング、女子駅伝、女子ラグビー、新体操、女子サッカー、女子水球、女子重量挙げ等、数年後には名声を博することができるよう支援します。さらに、強い日体大、あらゆる競技で旋風を巻き起こしたいものです。

急ピッチで進む国際化

大学のみならず、日体荏原高校、柏日体高校は、すでに国際化のために各国から留学生を受け入れている。また、昨年はJICAと大学が協定を締結し、38名の学生を体育とスポーツ指導のために発展途上国に派遣していただいた。青年海外協力隊の試験にも多くの学生が合格し、国際化の波に乗り遅れないよう指導に努めているところである。大学は国際交流センターを設置し、諸大学とも急ピッチで協定を次々と結んでいる。留学を希望する学生にたいし、最大のサービスを提供している。東京外大からも協定締結の申し入れがあり、国際化のために協力していただくことに

なっている。

さらなる総合大学化へ

すでに三学部体制で大学は安定した経営路線を歩んでいるが、体育学科の募集人数が620名と大きいので分割して新学部を創るべく構想中である。『スポーツ基本法』に基づき、国際的な新学部を早く立ち上げるために準備中です。少子化に対応できる魅力的で斬新な体育・スポーツ系学部を設置しなければなりません。くわえて、名城大学との連携協定によって、両大学で共通の学部設置も視野に入れ、研究中です。高度な研究と認められている理工学部をもつ名城大学と運動能力の高い日体大、両大学でパイロット養成学部のような少数精鋭の専門的な学部を考慮中です。戦前の日体大に「航空体育科」がありましたが、その復活を目指すことが新時代への対応となると考えます。

日体大は、「身体にまつわる科学と文化」の総合大学へと発展させねばなりません。現在、学生数は6300名、やがて三学部で7000名に達し、中規模大学の雄として存在感を高めつつあるにつけ、経営規模は1万人にする必要がある。そのための策を練り、発展へとつなげて行くべきだと信じている。

日体大の現状と明日

教員養成こそが本学の使命である。現役合格者を増加させるために、法人と大学、同窓会が一体となってこれを推進し、名門復活を現実のものにせねばならない。同窓会のみなさんに多大な御協力をいただいております。恐縮するばかり。大学のレベルアップは焦眉の急、さらに入試改革を進め難易度の高い大学にします。入試に関しては、いかなる不正も許さず、情実的な入試は絶対に認めず、公正厳格に実施するのは当然である。

日体大の知名度は、リクルート社の調査では関東地方で13位、全国的にも上位にランクされているが、それに満足することなく、あらゆる見直しを行なう。近年、「ワンファミリー」施策により、法人の経営するすべての学校の協力体制が確立しつつある。すべての学校のレベルアップ作戦が、徐々に実りつつあることを嬉しく思う。

哲学者ニーチェは、「脱皮しないヘビは死んでしまう」と述べた。このことを全教職員に徹底させ、改革は当然のこと、日体の変化は生き残り戦略と説いて、今後も前進せねばならない。私の識るかぎり、日体大は改革の嫌いな大学であったようだが、近年、御理解をいただけるようになっていく。

理事長としての私の任期は、あと2年半、全力で日体大のために取り組んでまいりたいことを約束させていただく。



日本体育大学創立125周年の足跡(抄) 日本における比較オリンピック史の試み

日本体育大学学長 谷釜了正

じられていましたが、この人物に国際会議への出席を依頼します。折しもその頃、第2回オリンピック競技大会がパリの万国博覧会の余興(エキシビション)として実施されていました。したがって、山根氏は日本のスポーツ関係者として最初にこの大会を目撃したと思われませんが、

2016年は日本体育大学にとって節目の年です。創立125周年を迎え、記念事業を計画しているだけではありません。ブラジルの第2の都市リオデジャネイロで夏季オリンピックとパラリンピックが開催され、本学の学生・教職員が選手や役員としてその輝かしい舞台上で活躍することが期待される年でもあります。2020年の東京オリンピックで本学関係の選手がどれだけ多く出場し、活躍するかが問われますが、2016年を節目の年にして今から飛躍のための助走にかからねばなりません。そうした意味で、2016年は本学125年の歴史のなかでも看過できない年であると考えています。

本学は1891年8月に「体育会」の名称の下で開設されました。ドイツのスポーツ組織(Turnverein)をモデルにして開設されています。そのドイツ語の表現は「体育会」と直訳されますが、翌92年に「日本」を冠して「日本体育会」と改称し、さらに翌年に体育の指導者養成を本格的に開始するにいたります。これが日本体育大学の前身です。しかし、「体育会」結成の当初から指導者の養成が試みられ、全国に体操施設を建設し、そこに指導者を配置していましたので、このことを根拠に、その「体育会」を前身とする学校法人は2012年4月に学校法人日本体育会を学校法人日本体育大学にその名称を変更しています。この時点で、日本体育大学の歴史は2ヶ年溯り、1891年に創立とみなすこととなりました。2016年の創立125周年の記念式典を法人と大学が共同で実施することとし、その準備にかかっているところです。

ここで125年の歴史を日本におけるオリンピック史と比較しながら俯瞰してみたいと思います。2020年のオリンピックの東京開催を国民の皆さんが楽しみにしていますが、そのオリンピック組織委員会が誕生したのは1894年です。本学の設立母体が開設されたのは1891年であり、本学が誕生したのが1893年であることを考えると、本学はオリンピックの歴史とともにあるといわねばなりません。そこで日本のスポーツ団体の中でも、最も早くオリンピックと関わりを持ったのが本学及び法人であったことに触れてみましょう。

史料で確認できる範囲で語るしかありませんが、最初の出会いには1900年のパリ・オリンピックのときでした。現法人に万国体育会議(今のオリンピックコンGRESS?)に代表者を派遣するように書簡がまいてきます。法人の監事であった山根正次氏が警視庁に医師として勤務していたことから、その当時、警察庁から欧州への公衆衛生事情の調査のための出張が命

定かではありません。ともあれ、これがきっかけになって、オリンピック大会の出場依頼の書簡が本学法人に届けられました。1896年に第1回大会がギリシャのアテネで開催されてから10年経ったところで、よくぞ継続できたたたえるために1906年に再びアテネで記念大会を実施することになりました。4年ごとに実施する訳ですから、1906年はオリンピック開催年の中間に当たります。今ではその大会は「中間オリンピック」とも呼ばれています。1900年の万国体育会議に出席した日本体育会監事の山根氏宛に、ギリシャ皇太子から、その中間オリンピックに日本の参加が要請されました。資金不足のため、残念ながら、選手の派遣はできませんでしたが、日本のオリンピック史の最初のページをかざったのは本学法人であったのです。

日本のオリンピック初参加は第5回のストックホルム大会(1912)です。日本人で最初のIOC委員になったのは、有名な嘉納治五郎翁ですが、彼は東京高等師範学校の校長で、本学法人の評議員でもありました。IOCから日本選手の出場を依頼された嘉納氏は柔道の組織以外にはスポーツの組織団体を持っていませんでしたので、評議員を務める本学法人に選手派遣を依頼しています。しかし、このときもおそらく資金問題から選手の派遣を断念しています。その結果、嘉納氏は自らスポーツの団体を結成し、羽田の運動場でオリンピック予選会を開催し、2名の選手を選抜して自らが団長となってストックホルムのオリンピックに出場することとなりました。こうして日本の初期オリンピック史において本学法人が関わっていたことを知ることができそうですが、それは同時に本学及び本法人がその当時、日本のアマチュアスポーツを統括しうる団体であるとみなされていたことを物語っています。

1964年10月にオリンピック東京大会が開催され、この大会と本学との関わりは誰もが知っているところです。しかし1940年に東京でオリンピックの開催が予定されていたことや、駒沢公園がオリンピック主会場に予定されていたこと、名門ハンドボール部が、ドイツと日本が同盟を結んでいたことからオリンピック種目として採用され、それを契機に誕生したことなど、数々の話題が本学の歴史を彩ります。紙幅の関係から、オリンピック史に刻まれた本学のすべての足跡を綴ることはできませんが、日本のオリンピック史を語ることは日本体育大学の歴史を語ることでありと申し上げておきたいと思います。



教職員全員がプロの目で挑戦 スピードとけじめをもって

学校法人日本体育大学 常務理事
今村 裕

総合大学でも続々と体育系学部が開設されてきている今日だからこそ、もう一度、本学としてその使命である「社会が必要としている人材の養成」に主眼をおくべきである。保健医療学部は医療系であるため、これまでの日本体育大学と全く違う畑であるように思われるが、

大学卒業後40年あまり。職場は変わったが一貫して大学や高校の運営にかかわり続けている。いくつかの大学、高校の改革にかかわり、今は日本体育大学の運営に携わっている。

大学4年時、不動産デベロッパーを就職先に決めていた。しかし母校から「大学で働かないか」と勧誘を受けたことで状況が一変。最終的には父親に手紙まで送り、就職を求める大学側の熱意に打たれた。学校勤務など考えたこともなかったが、わざわざ指名してくれたことに報いたいと思った。それが人生の分かれ道となった。母校理事長の秘書を務める期間が長かった。出張中も同じ部屋で過ごすなど、文字通り寝食を共にしながら大学経営のノウハウを学んだ。理事長は仕事で冗談一つ許さない厳しい性格だが、非常に前向きで明るい人だった。仕事では特にスピードとけじめを求められ、緊張の連続だったが、先生との出会いがあったから今の自分がある。この間、母校の付属高の立て直しや短大からの4年制大学設置のため、指導者や学生集めに全国各地を奔走した。「低迷している学校は組織全体のモチベーションが下がっている。それを上げるためには自ら行動してみせる必要がある」、これを持論とした。

今の舞台は、多くのスポーツ指導者を世に輩出し、全国の大学の中でも独自の存在感を見せてきた日本体育大学であるが、近年は他大学にも健康科学、スポーツ科学などの体育系学部が多数でき、競争は厳しくなっている。今後生き残るために指導者養成だけでいいのか、今のカリキュラムでいいのかを含め、路線を見直す時期に来ている。

私学の発展は社会が必要としている人材を輩出できるかにかかっており、少子化が進む中、非常に厳しい状況におかれている。数十年前と異なり、大学数も増え、開設地域も様々である。しかし、どこの大学をみても、諸条件、教育体制、授業料等の格差がなくなり平均化してきている。同じような大学であるならば、生活費などの費用が多かからない地元への進学志向が強まりつつあり、他大学との差別化、大学の独自性が問われ、生き残り戦略が強く求められている。日本体育大学はこれまで体育学部のみで伝統を築いてきた。新設「児童スポーツ教育学部」が2013年4月にスタートし、2014年は「保健医療学部」が新たに開設された。この学部はこれまでの日本体育大学とは違う分野であり、大学にとって本当の意味での挑戦である。

健康や身体を科学するという意味では近い分野であり、大学としても順応しやすく、組織力もつきやすく、この分野を新しい視点で研究教育していく価値は充分にある。

定員割れをする大学が50%余もある状況下、文部科学省の大学設置基準は非常に厳しいものになっている。幸い本学では定員割れは起きていないが、一般的にこのことは人件費や施設設備費など学校運営にも影響を及ぼす。ますます社会に求められる大学のみが生き残れるということになる。いかに魅力ある大学創りができるか、社会が必要とする人材を送り出すことができるかどうか、我々教員、職員が常に社会に目を向けて社会と連携していくことが大切である。即ち、卒業生を有為な人材として社会に送り出すこと、これが社会に対する一番のPRにもなる。

最近の大学生の中には、小論文や履歴書が自分で書けない、封筒の書き方が分からない学生がいるという話を聞く。昔なら大学を卒業するまでに当たり前のように身につけていたことが、身につけていないという現実が一部にある。かつて大学のカリキュラムは基礎科目、専門科目がきちんと決められていたが、今は各大学の判断で進めることができるようになり、大学に独自性を求めることでその評価を問うている。これまで歴史と伝統ある大学として自信をもって人材を輩出してきたが、これまでと全く違う分野で新学部を創るということは、ある意味かなりの冒険である。しかし、教育は国の将来を左右するといわれ、そこに携わっている者がその重要さを認識しておかなければならない。

本法人の設置校のうち、日体荏原高等学校、日体桜華高等学校、柏日体高等学校、浜松日体高等学校、また、日体柔整専門学校も、それぞれ長い歴史をもっている。日本体育大学と連携し、同じく、どのような方向に進んでいくのか。教育界も日々、競争や勝負の間にあり決して平穏な世界ではない。教職員は生徒の登校から下校まで、学生・生徒と密接にかかわる大事な役割を担っている。当たり前だが、人の成長や人生に携わる重要な責任を担っているという自覚が必要である。

2020年東京オリンピック・パラリンピックは、本学にとって追い風になることは間違いない。オリンピック・パラリンピックに出場する選手や指導者はもちろん、ひとりでも多くの学生、教員、職員が、東京オリンピック・パラリンピックの成功に貢献できることを願っている。

日体大バレーボール部 チームづくりの 〈伝統〉と〈継承〉

このたび退職される統轄部長・森田淳悟先生の日体大学生時代、オリンピックの思い出と、平成26年度、男女ともに好成績を残した日体大バレーボール部の躍進を支える先生方のチームづくりへの「思い」を聞く。

日体大で生まれた1人時間差攻撃

——森田先生が、メキシコオリンピックに出場なされたのは、大学在学中ですか。

森田 大学3年生の時ですね。

この時は、銀メダルだったんですが、日本に帰ってきましたら、全日本男子バレーボールチームの松平康隆監督が、「次のミュンヘンでは絶対に金メダルを獲る」と。「そのために、みんな、何でもいいから、何か新しいことを考えてくれ」と言われたんです。それで、ある日の練習中、私がクイックに入ろうとしたら、セッターが1メートルくらい高いボールをあげちゃったんですよ。これが、僕の頭を越えていけば、普通の時間差攻撃ができるんだけど、僕の真上に来ちゃった。仕方がないから、このボールをちょこっとジャンプをして打ったら、相手のブロックをはずしたんです。セッターは「すみません」と謝りにきたんですけど、「ちょっとおもしろいから、もう1回、やってみよう」と言いまして、やってみると、またブロックをはずしたんです。この瞬間に1人時間差攻撃が日体大で生まれたわけです。それで、松平監督にこれを見せましたら、「俺が〈使え〉と言うまでは使うな」と。それでしばらく封印していました。——その封印が本格的に解かれたのが、金メダルに輝いた昭和47年のミュンヘンオリンピックだったわけですね。

森田 はい。この1人時間差攻撃を全日本男子バレーボールチームの秘密兵器にしたわけです。それが、この大会で勝利を収めることができた要因のひとつだったのかもしれないね。

大切なのは、人と人とのつながり

——平成26年度、バレーボール部は男女ともに好成績を収めましたね。

根本 女子部においては、優勝回数28回、全日本インカレ(全日本バレーボール大学男女選手権大会)14連勝という宗内徳行先生が築き上げてきた伝統を継承しつつ、新しいものに挑戦して進化していこうと思います。それが今後の日体大の歴史をつくるにあたり大切なことだと思うのです。まさに「古豪復活」か

ら「常勝日体大」にしていきたいと思います。26年度は東日本インカレ優勝に始まり、秋季リーグ戦優勝、全日本インカレ優勝と終わってみれば3冠を獲ることができました。監督になってから優勝するまでに13年かかりましたが、森田先生、山本先生や関係者の人々に支えられてこの結果が得られたのだと思います。

——山本先生は、男子部監督着任から6年目となります。その間のチームの状況はいかがでしたか。

山本 私が着任してから、リーグ優勝2回、全日本インカレ準優勝3回と、全日本チャンピオンになるにはもう一歩のところまでできています。着実にチームは力をつけていますが、ただ勝てばいいというものでもありません。実業団チームであれば、単純に競技に強い、競技に勝つチームがいいということになりますが、大学チームの場合、目的が違いますからね。我々は教員として学生教育、人間教育を一番の目的として考えないといけない。そこをおろそかにしたら、勝っても意味はないんです。——その時、山本先生が男子のチームづくりをするうえで大切なことは何かとお考えですか。

山本 私が最も重要視していることは、他の人のことを考え、周りの人のことを思いやるということです。バレーボールというのは、1人でやれる競技ではないんです。6人がコートに入って、ひとつのボールを動かす。自分1人が好きなように動いていたら、ボールは動かないし、点数も取れない。そういう意味で、人のことを思いやるということは、とても重要ですし、バレーボールを通して、そういったことが学べるわけです。

根本 そういう、人と人とのつながりを大事にするのは、日体大の伝統だと思います。ただその時、忘れてはならないのは、ボールを動かしているのは選手だけではないということです。チームの中には、選手を支えるトレーナーやマネージャーなど、様々な人がいるし、そういったチームを外から支えてくれる人たちもいるわけです。

山本 自分たちのためだけに勝つのではない。大きい意味でのチームプレイが大切なんです。

森田淳悟^{先生}(日体大バレーボール部統轄部長)

山本健之^{先生}(日体大バレーボール部部长 男子監督)

根本研^{先生}(日体大バレーボール部 女子監督)

聞き手 金井茂夫(日体大同窓会 広報委員)



森田淳悟 もりたじゅんご
北海道出身。日本大学鶴ヶ丘高校卒業後、昭和41年、日体大に入学。昭和43年のメキシコ五輪で銀メダル、昭和47年のミュンヘン五輪で金メダルを獲得し、日体大卒業後は日本鋼管バレーボール部に入部。昭和56年、日体大バレーボール部男子監督に就任し、平成21年にはバレーボール部統轄部長に。平成26年度をもって、日体大を退職する。日本オリンピックズ協会常務理事。

日体魂が闘志と創造力を喚起する。
伝統の継承と飽くなき挑戦が
新たな時代を切り拓く。

「信頼・団結・闘志」を受け継ぐ

山本 ただ、人と人のつながりというのは簡単にできるものではありません。そこには「信頼」が必要です。そして相手の信頼を得るには、まず、自分自身がベストを尽くさないといけない。そうやって、チーム全員が切磋琢磨していく中で、絆が深まり、信頼関係が生まれてくるわけです。

森田 男子部がテーマとして掲げている「信頼・団結・闘志」の「信頼」とはまさにそのことなんです。そして、お互いが「信頼」で結びつくことで「団結」し、「団結」することで、様々な困難を乗り越えていく。

山本 仲間のことを思いやれば、仲間が自分を思いやってくれる。その仲間たちが集まればひとつの強い力になる。全員でその力を糧に目標に立ち向かう心を持つ。そういった「信頼・団結・闘志」が日体大バレーボール部のベースにあって、そのうえで、各世代がチームの色付けをしているんですね。

森田 本当にそうですね。だから、私はこれまで、「自分たちの伝統をつくれ」と言い続けてきたんです。バレーボール部は創部以来86年になりますから、当然、伝統ということが言われるわけですけど、無理をして、前のチームのことは受け継ぐ必要はないんです。

山本 4年生が卒業すると、次の代である3年生が「よし、俺たちの代はこうしよう」と考えてやる。彼らが4年生でいるのはたった1年ですし、その1年のことしか考えていない。けれども、それでいいんです。それが積み重なって、86年の歴史ができたわけです。

——森田先生、最後に2人の後継者に対して何か伝えたいことはありますか？

森田 私は何も心配していません。2人とも、バレーボールをよく知っていますし、学生教育、学生の将来のことも頭に入れながらやっていただいていますから。自分たちなりのチームづくりをしてもらえればと思います。同窓の皆様には、今後とも2人の活躍を見守っていただき、全国から応援いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。



根本研 ねもとけん
東京都出身。東洋高校卒業後、平成2年、日体大に入学。平成2年、ならびに平成4年、インカレで優勝。大学卒業後、日体大大学院へと進み、コーチング学、ゲーム分析を研究。現在、東京都バレーボール協会理事、強化委員長を務める。本学体育学部体育学科准教授。



山本健之 やまもとけんじ
広島県出身。広島工業大学附属工業高校(現・広島工業大学高等学校)を経て、昭和63年、日体大に入学。平成2年、インカレで優勝。日体大卒業後はJTバレーボール部で活躍し、平成6年、平成13年・15年と全日本男子バレーボールチームに選出される。本学体育学部体育学科准教授。

平成26年度 日本体育大学

第52回(平成26年度)日本体育大学体育研究発表実演会は、平成26年12月5日から7日までの3日間、テーマ「繋げる——未来へ向けて」のもと、茨城県、栃木県、群馬県の北関東3県で開催された。



いづれの大会も、各同窓会支部関係者がおおよそ1年前に実行委員会を組織し、精力的な準備活動を展開された。その努力が実り、すべての大会が大成功であった。同窓会の底力に加え、天候も応援してくれた。

どこの実行委員会も設立当初は、観客動員と運営費で頭を悩ましておられたようですが、終わってみればその心配は全く無用であった。観客動員については、どの会場も最終的に収容人員をオーバーすることで頭を悩ます結果となった。ちなみに、6時間も前から関東のカラッ風にさらされながらひたすら開場を待っていた人もいた。

どこの会場も、開場1時間前には長蛇の列であった。関係者の話によると遠く青森から駆けつけてくれた観客もおられたという。嬉しい反面、気の毒な思いで申し訳ない気持ちにかられた。地元メディアの積極的な支援によるものでもあるが、スポンサーの力を見逃すわけにはいかない。多くの方々が応援してくれた結果である。実に有り難い話である。感謝、感謝に尽きる思いだ。

3県の同窓会支部役員の話によると、この準備活動を通して同窓生の絆が期待以上に強まったという。また、地元の教育委員会やスポーツ関係者、はたまた保護者会等との相互協力関係も深まり、目に見えない相乗効果もあったと、よろこんでいた。

そうした地元の熱心な受け入れ準備に応える形で、大会に参加した学生諸君が日頃の練習成果を思う存分発揮してくれたのだ。

ワンファミリーのスローガンを掲げて邁進する日体ファミリーにとって、この体育研究発表実演会はそのモデルに等しい。和の心が存分に発揮できたのだ。会場では、観客の演技者に対する目に見えない期待とそれに応えようとする演技者の力が太い絆で結ばれていた。そこには何か、日体ファミリーでしか感ずることのできない独特な雰囲気があった。

その意味では、各会場のキャパシティの差こそあれ、緊迫感ほどの会場も同じで、アツという間の2時間強であった。

3会場でのプログラムは、第1日目の地元高校生(茨城県立大洗高等学校)によるマーチングバンド部の前座パフォーマンス

を除き、等しく元気な「チアリーダー」の演技から始まり、「フィナーレ」までの全体14演技で構成されていた。また、今回のプログラムでは、久しぶりに陸上競技(ハードル走と走り高跳び)の演技が発表された。華麗な走りど力強いジャンプはまさに動く芸術そのものだ。

プログラムの内容

1. チアリーダー
2. 陸上競技
3. ダブルダッチ
4. 体操競技
5. ハンドボール
6. 伝統芸能(大田楽)
7. トランポリン
8. 体操
9. 少林寺拳法
10. ダンス
11. 新体操
12. 集団行動
13. エッサッサ
14. フィナーレ



1 各大会は元気なチアリーダーの演技で幕を開けた 2 一糸乱れぬ進パフォーマンスに観る者が息をのむ集団行動 3 ジャンパー、ターナー(回し手)の息がぴったり合い、躍動感あふれるダブルダッチ 4 伝統芸能では大田楽が舞われた 5 「日体魂」鼓舞するエッサッサ 6 実演会で久しぶりに披露された陸上競技(走り高跳び) 7 鋭い切れのある技を繰り広げた少林寺拳法 8 9 新体操では華麗なる演技を披露 10 技、表現力で魅せたダンス 11 会場からは始終大きな声援が飛んだ

体育研究発表実演会



各大会の特記事項

初日の12月5日(金)は、平日であったことから午後6時からの夜の発表会であった。茨城県ひたちなか市総合運動公園体育館で実施されたこの大会では立ち見も含め、約2500人の観客が学生たちの演技にくぎづけにされた。

午後5時30分から前座で発表してくれた大洗高校マーチングバンド部の演技は、体育研究発表実演会に花を添えてくれた。ちなみに、この学校は全校生徒数が200名で、そのうちの58名がマーチングバンド部員ということだ。日々、日体大の集団行動をモデルにし、練習に励んでいるということだが、自らの伴奏のリズムに乗った前後左右、バラエティーに富んだ行進は、実に見ごたえあるものであった。

午後6時からのオープニングでは松浪健四郎法人理事長のほか、多忙の中を駆けつけてくれた本間源基ひたちなか市長(ご息子が日体大卒業)からの歓迎のあいさつ、そして米山公治茨城県同窓会会長のあいさつがあった。

2日目の12月6日(土)は午後1時開場、2時からの開演でスタートした。会場は、栃木県ブレックスアリーナ宇都宮(宇都宮市営体育館)で、用意された2200席の客席が瞬間に満席になった。どの大会も同

じであるが、客層は幼児から老人に至るまで。車いすでの来客も目についた。

午後2時からのオープニングでは、松浪法人理事長のあいさつの後、渡邊健栃木県同窓会会長のあいさつがあった。渡邊会長は企業人を代表する会長であり、自らの手腕をもって大会運営に当たられた。渡邊会長は、自らの席に故山下勝司前会長の遺影を抱きかかえて母校日体大の学生が演ずる美と力強さに満ち溢れる演技に見入っておられた。前会長にも観てもらいたかったのであろう。「繋げる——未来へ向けて」のテーマにふさわしい、何とも人間らしいひとコマを見せていただいた。

最終日の12月7日(日)は、前日と同様午後1時開場、2時開演ということであったが、観覧しやすい席を確保したく、午前9時から寒い中で並んで待っていた人たちのために少し早めの開場となった。

会場は、群馬県前橋市にある群馬県総合スポーツセンター(ALSOKぐんまアリーナ)で、4500人を収容できる体育館であった。その体育館が瞬間に満杯になった。地元紙(上毛新聞)の後援もあってか、

2500人もの人たちが抽選漏れで入場できなかったという。何とも、嬉しい悲鳴である。抽選漏れされ、観てもらえなかった人たちのため、いつか、どこかでチャンスをつくりたいものだ。

松浪法人理事長のあいさつの後、松本邦夫群馬県同窓会会長が歓迎のあいさつをされ、演技がスタートした。吉野勉群馬県教育委員会教育長をはじめ、多くのスポーツ担当者にもご観覧いただいた。

3日間にわたって繰り広げられた体育研究発表実演会は、ことばだけでは言い尽くせないほど、人びとの心にスポーツの重要性を訴えたに違いない。

この重要なイベントを企画運営された大学当局をはじめ、主管された地元同窓会、演技をしてくれた学生諸君、そしてご支援、ご協力いただいたすべての関係各位に深甚なる敬意と感謝の意を表して報告としたい。

記載責任者 | 瀧澤康二



同窓会運営の基本方針

平成26年7月26日(土)第3回役員会

- 1 本会設立目的^{*1}の原点に立つ。
そのうえで、今期(平成26・27・28年度)三カ年を「黎明」^{*2}の年とする。
- 2 同窓会として、建学の精神^{*3}に立ち返るとともに、
「質実剛健」「団結和協」の気風を再認識し、たゆみない前進を誓い合い、
ゆるぎない連帯を再構成するために全力を注ぐ。
- 3 「和」を重視し、日体ファミリー(日體家族)の一員として、
積極的・主体的にリーダーシップを発揮する。
- 4 「師弟同行」^{*4}の義を解し、次代を担う後進のために、
我々は、自ら進んで実践・垂範し、
日本、否、世界の舞台上で活躍できる有為な人材の輩出に努める。
- 5 2016年(平成28年)創立125周年の佳節並びに
2020年(平成32年)東京オリンピック・パラリンピックの機運を最大限生かし、
大いなる母校の発展に貢献する。

注 釈

*1 | 設立目的(会則)

設立目的(第3条)

- ・会員相互の親睦と研鑽を図る。
- ・母校の発展に寄与する。

目的達成のための事業(第4条)

- 1) 会員相互の連絡と親睦に関する事
- 2) 会員並びに在学生の支援に関する事
- 3) 会員名簿の管理及び会誌の発行に関する事
- 4) 体育・スポーツに関する研究会・講演会等の開催に関する事
- 5) 母校発展のための協力に関する事
- 6) 体育・スポーツ功労等の表彰に関する事
- 7) その他本会の目的達成に必要な事業に関する事

*2 | 黎明^{れいめい}

広辞苑

- I あげがた。よあけ。
- II 比喩的に、新しい時代・文化・芸術

など、物事の始まり。「近代日本の一を告げる」

新寮歌

1 番の始語「黎明つくる大太鼓 桜並木や花吹雪～」

*3 | 建学の精神

「體育富強之基」真に豊かな国家・社会を実現するためには、体育・スポーツの普及・発展を積極的に推進し、健全な心身を兼ね備えた全人格的な人間を数多く育成することが肝要である。(日本体育大学ホームページより)

*4 | 師弟同行^{していどうぎょう}

- I 碑誌における栗本義彦学長(当時)の撰文(昭和33年3月)より「本学が、その教育精神たる至誠・奉公・剛毅質実と、これを貫く師弟同行の教育方針に則り、心身共に健全にして～」「英靈よ～後進が精進の姿を眺め～」
- II 師匠も弟子も同じ行ない(振る舞い)

をすることが教えることの基本という意味。

- III 学校においては、学習者も教職員も同じ方向・目的で学び、指導していくこと。
- IV 教員と学生が教育的実践を通して共に学び合う、励まし合うこと。
- V 俳諧師・松尾芭蕉は、この師弟同行を貫き、弟子と共に旅をし、言葉遊びのように捉えられていた俳諧を芸術にまで高めた。『おくのほそ道』をはじめ、彼の作品には弟子の句が多く並べられている。

(参考) 同行：どうぎょう。

- I 共に行くこと。また、その人。どうこう。
- 奥の細道「一曾良」。「一二人」
- II 相伴って神仏に参詣する人々。巡礼者の道づれ。
- III 心を同じくして仏道を修行する者。平家物語(10)「那智ごもりの僧共のなかに、……に語りけるは」(広辞苑)

課題解決に向けて

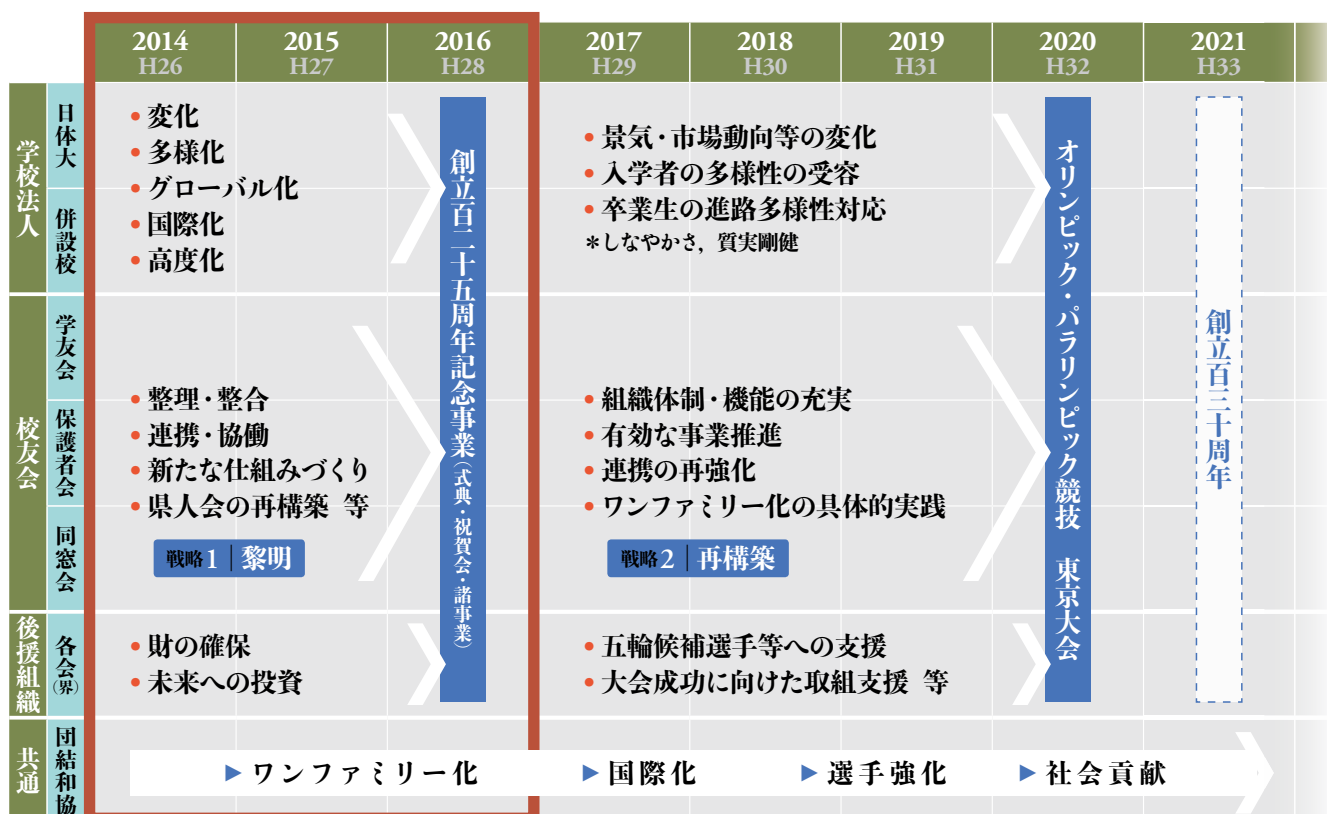
母校日本体育大学は、国際化、グローバル化、情報化等が著しく進展する中で、めまぐるしい変化・進化を遂げています。また、創立125周年や2020年東京オリンピック・パラリンピックの追い風を受けて大躍進の時を迎え、法人の松浪理事長、谷釜学長の二人三脚のもとで、次々と新たな手立てが講じられています。

一方、本学同窓会も大きな転換期を迎えており、これまで碓井前会長を中心に取り組んできた財政施策や組織体制の充実など、同窓会改革路線をさらに強化すべく、現在、瀧澤会長の陣頭指揮のもと、同窓会組織の活性化に向けた具体的なアクションプランの構築に着手し始めているところです。

昨今、他大学の同窓会・校友会も時代の変化の中で、「同じ顔ぶれ、高齢化」「若者離れ」など、類似の課題を抱えていると伺っています。こうした状況の中で、卒業生・会員各位の団結と協のもと、互いに姿勢を正し、呼吸を整えながら、「同窓会運営の基本方針」(前頁)の一字一句に込めた日体魂を感じ取っていただき、今後の活性化策に共に取り組んで行こうではありませんか。

日本体育大学同窓会 幹事長 **塩谷和雄**

- 1 | 同窓会の基本的な考え=「すべての卒業生を同窓会員に」
- 2 | 会員確保と財政の安定化
- 3 | 大学、同窓会本部、同窓会支部の連携強化
- 4 | 校友会の具現化
- 5 | 同窓会本部・支部及び事業の活性化
- 6 | 創立125周年記念事業への協力・協働
- 7 | 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた支援



参考 | 日体ファミリーをめぐる変化のプロセス

同窓会支部活動報告

報告事項 ①活動状況概要 ②会員数 ③総会または懇親会参加者数
※会合等の開催年に関しては、特に記さないかぎり、平成26年です。

北海道ブロック

道央

道央は小樽、札幌、南空知の3地区で組織されています。把握できている同窓生は500名を超えていますが、一般企業就職者については把握できていないのが現状です。会費納入状況も決して良好とはいえず苦慮しているところです。北海道地区協議会を2年連続で開催し、法人や大学の説明を直接聞くことができたこと、懇親を深めることができたことは多くの会員にとって実りあるものでした。北海道支部が独立したメリットだと考えています。

今後も学生支援事業を中心に、北海道の窓口となり、道内他支部と連携・協力して事業を開催します。

報告事項 ①a) 役員会、地区長・事務局長会議 b) 同窓会名簿作成 c) 北海道地区協議会 d) 教育実習特別講師 e) 教員採用試験対策講習会 f) TLTプロジェクト

道東

報告事項 ①a) 日本学生氷上選手権大会(インカレ)北海道帯広市開催激励訪問[平成25年1月] b) 道東支部会議[平成25年3月・釧路工業高等専門学校会議室]:総会を含む。各地区の地区長、事務局長参加 c) 道東支部総会[4月・十勝川温泉笹井ホテル]:各地区の地区長、事務局長参加 d) 日体大スケート部(女子ホッケー部門) 宿舎激励訪問[8月] e) 北海道同窓会運営協議会[9月]:4支部会議。十勝地区支部長、事務局長参加 f) 日本学生氷上選手権大会(インカレ)北海道釧路市開催激励訪問[平成27年1月]/②334名(十勝地区140名、釧路地区50名、オホーツク地区107名、根室地区37名)/③6名(十勝、釧路、オホーツクの各地区長、事務局長)

道南

北海道ブロックが設立され、2年目を迎えました。8月30日に総会を開催しましたが、その際、代表者会議(代議員会)に出席した支部長より報告があり、谷釜正日体大学長からは大学の活動に対する同窓会支援への謝辞と日体大がオリンピック・パラリンピック誘致に大きく貢献したというお話、平沼憲治日体大保健医療学部長からは新たに医療の領域で高度な知識と技術を身につけたプロの育成をスタートさせたというお話をいただいたことや、荻浩三日体大アドミッションセンター長による入学試験内容の変更についてのご説明、横山順一日体大学生支援センター副センター長による就職状況とそれに向けての取組みのご説明、新設したゲストハウスの利用についてのご説明、日体大北海道学園の開校

に関する報告をいただいたことが支部会員に伝えられました。現在、北海道同窓会として様々な取組みが道央支部を中心に行われていますが、当面は道央を中心に、他3支部との協力・連携・支援体制の下、活動していくこと、並びに、最高議決機関として各支部長・支部事務局長会議を設置することが決定されました。

報告事項 ①a) 総会[8月30日]

道北

同窓会最北端の支部となった道北は、旭川市を活動の中心とし、北空知、名寄、旭川の3地区が力を合わせて運営しています。開設当初、これまでのシステムと変わったことで戸惑いもありましたが、地区代表役員会も開き、軌道に乗り始めました。道北としての活動はこれからですが、地区ごとの活動は積極的に展開しています。

会員数は、150名程度ですが、実質OB・OGはもっと多いと考えますので、会員数拡大に精を出していきたいと考えています。また若い会員が少ないので、若手の育成に力を注いでいきたいと考えています。

報告事項 ①a) 地区ごとの懇親会や交流会 b) ゴルフコンペ等:参加者が少なく、今後は北海道ならではの研修を開催したい c) 総会/②約150名/③8名(平成25年度の総会=地区代表役員会)

東北ブロック

青森県

報告事項 ①a) 教育実習事前指導・巡回指導:高校7名、中学2名 b) 県内各支部長・事務局長会議(県内6支部) c) 女子同窓の集い d) 総会・会員研修会・懇親会 e) 教員採用試験対策研修会 f) 教員採用試験対策研修会[平成25年12月29日]:保護者会との共催。参加者は学生13名、保護者12名の計25名。最近になく参加者が多く、厳しい採用状況を乗り切ろうと取組む姿勢に熱意が感じとれた。講義内容に工夫がなされ、講師それぞれの立場、経験が存分に活かされており、受講者にとっては内容の濃いものであった g) 会員研修会[10月4日]:荻浩三日体大アドミッションセンター長による講演「最新の入試制度について」。入試制度改革に取組む強い想いが伝わってきた。入試の将来的な展望と、それに則した学生の資質向上の取組みが日体発展の足掛かりになるものと期待が持た/②159名(平成25年度年会費納入者数)/③総会30名

秋田県

前年に引き続き、同窓生の掘り起し、名簿の整理を活動の重点とし、各支部にも作業を



日体秋田の会にて、教育実習学生の激励

依頼。また、会員への情報提供を行い、身近な同窓会という意識付けを図っています。

報告事項 ①a) 日体秋田の会[6月14日]:同窓会、保護者会合同の研修・親睦会。教育実習学生の激励も兼ねて実施。研修会は、荻浩三日体大アドミッションセンター長による講話「人材育成と日本体育大学入試」 b) 就職対策支援事業[12月7日]:東京・世田谷キャンパスを会場に、同窓の現役校長を指導者に実施。参加学生15名。保護者会役員2名、塩谷和雄同窓会幹事長出席。「社会の求めに応じた広い視野と教養を身に付け、知識人としての力量を備えた日体生、日体大卒業生でありたい」をテーマに、より計画的、挑戦的な実践を促す c) 秋田県人会の組織づくり:学生研修会終了後に県人会を実施。研修会指導者も参加し、意見交換や相談活動を行う d) 学生参加の県内スポーツ行事:男鹿駅伝の応援。女子駅伝チーム宿舎の激励/②300名/③代議員総会25名、懇親会50名

岩手県

7月12日、全国同窓会からの表彰状を受賞者に伝達するため、宮古市に出かけました。通常は総会の席上で行っていますが、受賞者が宮古市、山田町在住だったこともあり、沿岸に向きました。帰り、震災の被災地、宮古市、山田町、大槌町、釜石市を經由して盛岡に戻りましたが、復興はまだまだの様子でした。

総会は毎年2月に行っており、参加者は30名前後と少ないですが、懇親会において会員相互の親睦を深めています。また総会の後、「先輩から聞く会」を設けており、毎回貴重な講話をいただき、有意義な会となるよう努力しています。

大学の施設を借用した就職講座も開設しています。今回の講師は支部会副会長が務めました。学生の諸事情もあり、参加者は18名でした。

保護者会には役員が出席し、支部の状況を説明し、連携を深めています。今後、卒業生の同窓会への加入促進や、就職活動の支援にもつなげていきたいと思っています。

山形県

県内同窓会員は、県内5支部(村山、置賜、田川、飽海、最北)に所属し、各支部で総会、

懇親会、研修会等を開催しています。

総会は、支部の会員意識を高めることを目的に年1回、各支部輪番で開催しています。また、平成26年からFacebookによるホームページを開設し、会員への情報提供を行っています。今後も会員同士の絆を大切にしたいと、会の発展に向けて頑張りたいと思います。

報告事項 ①a) 総会・懇親会 b) 研修会「若人の集い」 c) 会報「燦」の年1回発行 d) 保護者会と連携した学生勉強会 [12月29日・山形市内で開催] e) 平成22年度会員名簿を元に新たに名簿を作成中 f) 大学、同窓会への協力(県内合宿、試合、同窓会への応援、補助等) / ②約580名

宮城県

報告事項 ①a) 教育実習担当講師打合せ [5月10日] b) 第1回役員会 [7月13日] c) 宮城県保護者会出席 [7月13日] d) 総会 [8月3日] e) 第2回役員会 [10月18日] f) 全日本大学女子駅伝大会応援 [10月26日・仙台市宮城野原陸上競技場] g) 事務局打合せ [12月12日] h) 就職対策研修会 [12月28日]: 学生、保護者対象 i) 同窓会研修事業「トレーニングセミナー」 [12月28日]: 同窓生対象 j) 就職(教職)対策研修会 [12月28日]: 同窓生対象。外部講師講演による / ②約450名 / ③総会14名(委任状36名)、懇親会14名

福島県

東日本大震災から4年が経ちましたが、皆様からのお見舞いや励ましをいただき感謝申し上げます。東京電力福島原子力発電所事故の影響は、まだまだ色濃く残っており、特に相双地区では避難が続き、十分な活動ができていない状況です。しかし、福島県の同窓会は、一步一步前に向かって進んでいこうと力を合わせて取り組んでいます。

同窓会には会員約500名が所属しており、県内5地区の支部(県北、県南、会津、いわき、相双)に分かれ、それぞれの支部(地区)において、支部総会、研修会、懇親会、会報発行などを行っています。県全体としての総会には行わず、各支部からの代表者が参加する代議員会を年1回行って、行事や会計に関する事項の審議、大学や同窓会本部の情報の伝達、各支部の活動報告や情報交換等を行っています。

また、教育実習生に対する特別巡回指導については、毎年、教員OB・OGが各校を回り、実習生のサポートや指導にあたっています。



福島県同窓会代議員会の模様

就職相談会(教員・公務員・一般企業採用試験対策)も、12月の帰省時に合わせて実施しています。

平成26年度は、福島市で東北地区協議会を開催。盛大に行われ、東北6県の絆も深めることができました。

関東・北信越ブロック

茨城県

茨城県同窓会は理事会、総会・懇親会、講演会などを年間事業計画に位置付けて開催。総会時に、各種表彰を実施し、会員の功労を称えています。また名簿、会報、研修、企業、女子の5委員会を設置、県内5地区にも各委員会を置き、活動しています。課題としては、全会員の把握、名簿の整理があります。

平成26年度は体育研究発表実演会茨城県大会の開催に伴い、実行委員会を組織し、9回に渡る準備会議を実施。実演会当日は約2500人の観客が集まり、ひたちなか市総合運動公園体育館を超過員にしました。

報告事項 ①a) 総会: 松浪健四郎法人理事長による講演他 b) 研修会: 研修委員会、女子委員会が実施 c) 教育実習生の指導: 34名(中学8名、高校26名) d) 実演会実行委員会: 9回実施 e) その他: 保護者会と連携・協力関係を構築し、諸事業で交流を深めている / ②約500名

栃木県

平成26年度の大きな行事として、12月5日-7日の3日間で体育研究発表実演会が北関東3県で行われました。栃木県では中日の6日に開催。実行委員会事務局を平成25年度から立ち上げ準備を進めてきました。協賛企業は150社以上集まり、当日の実行委員として約100名の同窓会員の皆様にご協力をいただき、当日は成功裏に終わることができました。改めて日体大の絆を感じさせる良い機会となりました。

また、総会・懇親会については、隔年で実施。平成25年度に開催したため、平成26年度の開催はありませんでしたが、例年約100名の参加があります。

報告事項 ②544名

群馬県

平成26年12月7日の体育研究発表実演会群馬県大会の開催にあたり、同窓会員がいろいろな面で一致団結・協力して取り組むことができました。大学当局に感謝します。

報告事項 ①a) 総会・懇親会: 県内を4地区に分け、輪番で毎年実施。参加者は各支部の理事と評議員であり、県総会を受けて各支部が支部総会を開催。県総会の資料や広報誌「上州エッセッサ」等を配布 b) 女子部会: 総会 [4月]、研修旅行 [5月、11月]、忘年会 [12月] を開催 c) 企業部会: 懇親会、情報交換 d) 保護者会出席: 総会・懇親会、就職セミナー、情報交換会等 e) 講演会: 県内同窓生に

よる講演会 f) 平成の会: 平成26年度より設立。若手の参加を目指した平成卒業生の懇親会 g) 教育実習指導者研修会: どのように指導助言をするのか研修 h) 教員採用試験対策: 学生を指導、試験実施後に検討会 i) 大学での県人学生との懇談会、教員採用試験対策相談: 合格しなかった学生に対しては非常勤講師などができるよう、窓口を広くする / ②500名 / ③132名(各支部の理事と評議員)

埼玉県

本会は、会員1000名。組織は顧問2名、参与10名、会長1名、副会長5名、理事24名、監事2名、事務局3名で活動しています。すべての同窓生は把握できてはいませんが、毎年下記の活動(hは除く)を行っています。

報告事項 ①a) 総会・講演会・懇親会: 年1回 [2月] b) 理事会: 年2回 [7月、12月] c) 公立学校採用試験研修会: 現役学生対象。年1回 [4月・東京・世田谷キャンパス] d) 臨任・非常勤対象研修会: 年4回 [4月 - 6月・県内] e) 教員採用試験2次対策研修会: 年1回 [7月 - 8月] f) 教育実習巡回指導: 平成26年度は中高65校、実習生96名、特別講師22名 g) 会員親睦ゴルフコンペ: 年1回 h) 関東・北信越地区協議会 [6月21日]

千葉県

これまで年1回の総会・懇親会を中心に、教育実習の巡回指導や教員採用試験の対策等の活動を実施してきました。ここ数年、総会・懇親会への参加者数が減っており、特に40代前半より若い世代の参加者の減少が目立つ状況にあります。

会員数は約700名と思われますが、全員の名簿等がないのが実情です。

平成25年度からの取組みとして、保護者会と合同で懇親会を実施し、この交流を通して、在学生への支援や保護者会の皆さんの力になればと考えています。また、保護者に同窓会活動についての理解を得て、卒業後、1人でも多くの方が同窓会に参加する一助になればとも願っています。

同窓会員の意識を高め、組織の充実を促すための取組みとして、平成25年度から総会の後に特別講演会を実施しています。平成25年度は松浪健四郎法人理事長に「明日の日体大」という演題で、母校に対しての熱い思いをお話しいただき、26年度は具志堅幸司日体大体育学部長に「わたしと体操」という演題でご自身の体験を通し、体育人としてのあり方をお話しいただきました。保護者にも参加していただき、とても好評でした。

報告事項 ①a) 総会 [6月29日] / ③38名

東京都

東京都在住・在勤者の同窓は推定約1万名と考えられます。しかし、住所の把握ができていない会員は個人情報の問題等から約2000名です。現在は会費の徴収はせずに通信協力費を募っています。会員数は協力費やハガキの返信者から800名としています。規約改正

も検討しつつ、都内23区、市町村を9地区に分割し、会報「日体大だましい」を年4回発行して運営しています。

報告事項 ①a) 教育実習生の指導:平成26年度は223名の実習生に対し、53名の教育現場を熟知した元管理職を中心に事前・事後、実習期間中の訪問指導を実施。11月に開催された実習反省協議会では概ね良好な実習だったと報告された b) 総会・研修会Ⅰ・懇親会[7月19日・東京・世田谷キャンパス]:大学、法人、同窓会会長、そして東京都保護者会、現役学生も含め80名を超す参加者。研修では、瀧澤康二同窓会会長に講演をいただき懇親を深める c) 研修会Ⅱ・教員採用試験1次対策講座:6月の土・日曜日に4日間、現役学生と再挑戦の同窓を対象に教育支援委員会が中心となり開催。申込者は31名と若干少な目だったが、皆、真剣に1次試験突破を目指した

神奈川県

平成26年度、神奈川県同窓会では入澤隆前会長が同窓会副会長に就任されたのを受け、7月に行われた常任幹事会で八幡満夫新会長を選出し、役員体制も一新してスタートを切ったところで、総会において、新会長の下、大学並びに同窓会の発展に寄与すべく一致団結を会員皆で誓いました。

現在、本県同窓会は10支部があり、各支部においても実習に来る学生を集めての激励会、学習会など会員相互の資質の向上を目指し、様々な活動を展開しています。



横須賀で開催された総会・忘年懇親会

報告事項 ①a) 総会・忘年懇親会[12月6日・横須賀セントラルホテル]:毎年12月第1土曜日に各支部の輪番制で開催 b) 神奈川県教員採用試験対策セミナー:毎年5月、8月に横浜・健志台、東京・世田谷の両キャンパスにて、学生を対象に実施。県会長をはじめ、様々な同窓会の方々に講師を務めていただいている c) 就職対策セミナー:毎年12月に開催。同窓会への勧誘も積極的に展開 d) 研修会:総会・忘年懇親会の前に実施。今村裕法人常務理事に「大学の現状と同窓会に期すること」と題した講演をお願いした/②1007名/③149名

新潟県

新潟県は全県を佐渡、村上、新発田、新津、新潟、三条加茂、巻、北魚小千谷、中魚十日町、南魚六日町、長岡、柏崎、上越、糸魚川の14ブロックに分け、それぞれが地域性を活かして活動しています。

報告事項 ①a) 事務局会議:年1回 b) 役員・地区長会議:年2回 c) 教育実習巡回指導者会議:年2回 d) 講演会:年1回。参加者約80名(保護者を含む) e) 就職対策・教員採用検査対策研修会:年4回 f) 広報活動:同窓会名簿発刊、同窓会会報発刊 g) 総会:年1回/②約400名

富山県

富山県は4地区(富山、高岡、新川、砺波)持ち回りで3年に1回、県全体の総会を開催。各地区の総会后、県総会、全国同窓会表彰4名の表彰式を行い、「日体大の今とこれから」と題して松浪健二郎法人理事長に講演をしていただきましたが、日体大の新学部の設立秘話や教員採用に向けた取組み、そして2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックのことなどのお話をお聞きし、日体大の飛躍に一同感動。会員同士親睦を深め、大いに盛りあがった会となりました。

報告事項 ①a) 総会[11月15日・パレプラン高志会館]/②600名/③130名

石川県

年1回の総会は、能登、金沢、加賀の3地区輪番制により、能登→金沢→加賀の順番で開催。平成26年度は谷釜了正日体大学長、荻浩三日体大アドミッションセンター長をお迎えして開かれました。谷釜学長からは大学の近況をお聞きし、荻アドミッションセンター長からは「日本体育大学が大きく変わる」と題して、入試状況について講演していただきました。参加した同窓生の多くは、状況の変化に驚きを感じていました。その後、懇親会も盛大に行われ、最後は「校歌」「寮歌」で締めくくり会を終えました。

平成27年度総会は、7月4日、能登地区で開催予定です。

報告事項 ①a) 総会・懇親会[7月5日・ANAクラウンプラザホテル金沢]:年1回、7月第1土曜日に開催/③約50名

福井県

福井県は県内を5地区(福井、坂井、奥越、丹南、嶺南)に分け、輪番で総会の準備を行い、懇親会は担当地区幹事が趣向を凝らし、盛大に催しています。

平成27年度からは、教育実習生への事前指導・巡回指導等を、学校を退職した同窓生を中心に行う予定です。その他、卒業後の同窓会入会への理解と協力をお願い、就職活動等の支援も行いたいと考えています。

報告事項 ①a) 有志による研修会(親睦ゴルフ) b) 総会:年1回、12月の第1土曜日に開催 c) 懇親会 d) 保護者会出席:本県の就職状況や教員採用状況等の報告、保護者との意見交換を行う/②約300名/③毎年60名前後

山梨県

報告事項 ①a) 総会並びに同窓相互研修会[12月7日・石和温泉ホテル君佳] b) 就職

対策事業・教育実習報告会[1月16日]:毎年1月に本県出身の学生を対象に東京・世田谷キャンパスで実施。研修会の後には学食で交流会も開催 c) 依田充代日体大教授(本県出身)講演:毎年、総会に併せて開催/②約300名/③総会43名

長野県

毎年2月11日に総会を開催(北信、中信、東信、南信の4支部で持ち回り)。参加者は近年では50名余りで、各支部でも支部総会を開催しています。

報告事項 ①a) 就職対策研修会:学生、保護者35名ほどが参加。教員採用試験(高校、中学)の合格者から合格体験を報告してもらい、日頃の心構え等についても助言をもらう。教員以外の分野からも講師を依頼して講義を実施。年末年始の帰省時に実施してから学生の参加者数は増加した b) 第52回体育研究発表実演会の視察:同窓のための研修事業として保護者会と合同で実施。世界文化遺産に登録された富岡製糸工場を見学後、前橋のALSOKぐんまアリーナで実演会を見学。同窓会と保護者会あわせて20名が参加。親睦にもつながった c) ゴルフ研修会[8月]:4支部持ち回りで開催 d) 学長杯ゴルフコンペ[10月・菅平グリーンゴルフ]

近畿・東海ブロック

静岡県

静岡県同窓会では会員の絆を深める意味で「元気で行こう日体大」のスローガンの下、下記の活動をしています。

報告事項 ①a) 総会:2年に1度開催。平成25年12月7日に第20回を開く b) 就職対策研修会:毎年8月に、教員採用試験1次合格者を対象に2次試験対策を実施。1月には、学生を対象に就職関連の研修会を実施。平成26年度は、教育実習関連指導も行う c) 静岡県同窓会会報「日體」の発行:平成26年度30号を発行。会員の情報交換、絆を深めている d) スポーツ講演会[平成25年12月7日]:平成11年より同窓及び静岡県民の体力向上、同窓の絆を深めることを目標に年に1度開催。8回目は第20回総会に併せて、田中理恵氏を迎え、講演と幼児、小学生への体操指導を実施。県民500名(うち同窓100名)が参加/②約1200名/③総会30名、懇親会30名



スポーツ講演会での、田中理恵氏による体操指導

愛知県

愛知県同窓会は、名古屋、尾張、西三河、東三河、知多、大学と6つの支部で構成されています。活動としては各定例会の他に、理事長が座長を務める組織活性化検討委員会を必要に応じて開き、組織や活動のあり方、活性化の方策について検討を重ねています。

報告事項 ① a) 総会・懇親会:毎年6月、各支部が持ち回りで開催。平成26年度の懇親会には今村裕法人常務理事はじめ、法人、大学、同窓会から8名の御参会をいただく b) 役員会:年3回 c) 支部長会:年2回 d) 懇親会:年2回 e) 就職対策研修会:3日間の日程で、現役学生、卒業生ら延べ72名が受講。東京アカデミー講師の筆記対策指導の他、直近の合格者からの指導助言、教育実習特別講師や管理職による面接指導など、実戦的で密度の濃い研修を実施。大学からは大山茂日体大学生支援センターキャリア支援部門事務長が来県され、激励をいただいた f) 教員採用2次対策研修会:1次試験合格者を対象に実施、卒業生10名が受講 g) 県立学校主任等研修会:教頭任用選考試験受査者を対象に、直近の合格者による指導助言を中心に実施 h) 県立学校教頭研修会:校長任用選考試験受査者を対象に、直近の合格者による指導助言を中心に実施/②1363名(平成26年度会員名簿掲載人数)/③148名(平成26年度)

岐阜県

岐阜県同窓会は、毎年7月に行われる総会の他、岐阜、西濃、中濃、東濃、飛騨、大学の6支部で相互の親睦を図る活動を実施しています。県全体では、後藤茂伸会長を中心に、下記の各種活動を行い、会員はもとより近県や大学との連携を進めています。

平成26年度総会後の懇親会では、同窓の輪と友情を一層深め、お子様同伴での若いご夫婦の出席もあり、笑顔が絶えない中、楽しく時は過ぎていきました。

報告事項 ① a) 役員会 b) 総会 c) 就職対策研修会 d) 懇親会 e) 教育実習直前指導 f) 保護者会総会出席 g) 県同窓会会報「日體」発行 h) 会員名簿発行:4年ごと/②389名/③懇親会34名

三重県

平成26年度の総会及び懇親会では、平成33年開催の三重国体の現在の進捗状況報告と同窓会及び会員各位への協力の呼びかけが行われ、支部会員が一丸となって盛りあげていくことが確認されました。また平成26年度の教育実習生の実習状況、教員採用試験の結果等の報告も行われました。

報告事項 ① a) 総会・懇親会[7月5日]:毎年7月第1土曜日に県内8支部が持ち回りで実施。各種報告、審議が行われる/②約500名/③32名

滋賀県

滋賀県同窓会は様々な活動をしており、平

成26年6月に実施した教員採用試験勉強会では、教員採用試験を受験した教育実習生1名に、同窓会の講師から、本県の教育方針や面接での質問傾向など、細かく指導をしていただきました。

本県も他県と同様、教員採用の現状は厳しく、数年前に同窓生1名が中学校教員に合格して以来、その後続かない状況です。教員採用だけでなく、企業も含め本県内で卒業生が活躍できる場を開拓していくことが必要であると考えています。

また、毎年2月に開催している総会、及び懇親会では、各種報告、審議とともに、全国同窓会表彰者に県会長から表彰状と記念品をお渡ししています。平成25年度の総会・懇親会は、先輩、後輩が年齢を忘れ、大学時代の思い出を語り合った楽しいひと時となりました。今後も多くの同窓生が参加できるよう、様々な取組みを行っていきたくと考えています。

報告事項 ① a) 定例総会:年1回 b) 役員会:年2回 c) 懇親会 d) 教員採用試験勉強会 e) 管理職研修会 f) 保護者会総会出席 g) 会報発行:年1回/②約300名/③38名

京都府

京都府は南北に長いので、府北部に両丹支部を設け、毎年5月末に支部総会・懇親会を開催。多くの同窓生が交流しています。

総会は、6月末に開催しており、併せて懇親会を実施していますが、全国の多くの支部と同様、参加者の固定化、及び減少傾向に歯止めが利かない状況が続いています。全国各支部の取組み状況を参考にさせていただきながら、より良い同窓会活動ができるよう努めていきたくと考えています。

また、平成27年度は、近畿・東海地区協議会や「近畿女子同窓の集い」を京都で開催します。京都府同窓会会員一同「おもてなし」の心でお迎えできるよう準備をしています。

教育実習生の事前指導や事後指導の充実、保護者会との連携も十分にできているとはいえない状況ですので、より連携を密にして、大学の現状や学生の様子なども同窓に伝えていければと考えています。

大阪府

どの都道府県においても会合の出席率や会費の納入状況が悪いと聞きますが、大阪府同窓会においても最も苦慮しているところです。また、若年層と女性の動員が不可欠と考え、総会・懇親会や若手交流会の費用を、一部または全額負担しており、若手交流会については継続して実施する必要を感じています。

大相撲大阪場所が開催される直前には、相撲部OB会共催で激励会を開催しています。大学出身の幕内力士数は、現在、日体大卒が近畿大卒と並びトップであると聞きました。その誇らしき同窓力士らと交流できるとあり、総会には出席されない方々も多数列席されています。今後も、大相撲観戦ツアーなどプロスポーツ観戦会等を企画し、一層交流を

深めたいと考えています。

また近年、一般企業への就職が増え、事業主として活躍されている方も増えてきています。現在、これらの方々の活動をホームページで発信する準備を進めているところです。大阪府同窓会ホームページ

<http://www.nittai-club-osaka.com>



大相撲大阪場所での激励会

報告事項 ① a) 同窓会の活性化:専門部へのバックアップ、若年交流会の実施等 b) 就職対策研修会の開催 c) 大相撲力士激励会の開催(相撲部OB会共催)/②1700名以上

奈良県

報告事項 ① a) 総会 b) 教育実習直前指導 c) 教育実習巡回指導 d) 保護者会総会出席 e) 支部役員会[6月、11月]/②120名/③総会23名

和歌山県

和歌山県では8つのブロックに分け、ブロック長を中心に、支部会開催等の活動を展開しています。また、全体総会は8ブロック持ち回りで開催しており、平成26年度の総会においては、瀧澤康二同窓会会長にご出席いただき、活発に討議。「会員数が減少している。特に教員の数が激減しており、若い卒業生が各地方に帰ってきているのかどうか分からない。卒業後の進路(就職)について知ることができれば同窓会への勧誘もできるのだが」という意見も出ました。懇親会では交流を深める一方、「江戸芸かっぱれ・よしき会」の皆さんが芸を披露してくれ、楽しいひと時を過ごすことができました。

報告事項 ① a) 総会・懇親会[休暇村 南紀勝浦]:毎年11月の最終土曜日に開催 b) 各地区会 c) 講演「熊野古道は難行苦行」:熊野学研究会委員・山本殖生氏を講師に、熊野に人が集まってきた理由や熊野三山、参詣道、熊野詣の歴史について学ぶ/②410名/③37名

兵庫県

我が兵庫県は、10地区及び大学、高校、中学、女子部、企業部で組織。会費納入会員には「日体グッズ」を送っていますが、これが大変好評で会費納入者の増加につながっています。

報告事項 ① a) 理事会:年2回。年間の行事計画、予算、会費納入者増加対策を検討し、総会での報告依頼を行う b) 総会・講演会[7月26日]:平成26年度は各議題審議の後、松浪健四郎法人理事長にご講演をいただき、

今村裕法人常務理事にもご出席いただき
 c) 県同窓会伝達表彰式:全国同窓会から功労者表彰を受けられた諸氏への慰労 d)「近畿女子同窓の集い」[8月] e) 就職対策検討会:毎年6月に3、4年生を中心に開催。管理職等を経験された先輩方を講師にお迎えし、充実した検討会を実施(保護者も出席可) f) 同窓会と兵庫県保護者会との懇親会:毎年実施。日体大の先生にもご出席いただき、大学の現状、県同窓会活動や就職状況などについて意見交換を行う g) 教育実習生指導:事前指導、研究授業、事後指導を経験豊かな先輩の先生方をお願いし、丁寧な指導を行う/②約1600名

中国・四国ブロック

鳥取県

総会は隔年で実施しており、平成25年度、26年度の総会は平成27年2月に実施。また、県内には東部、中部、西部の3支部があり、各地区支部での総会は年1回実施しています。

報告事項 ①a) 中国・四国地区協議会[7月13日・ブランナル三朝]:各県はもとより、谷釜了正日体大学長、瀧澤康二同窓会会長をはじめ、松浪健四郎法人理事長等、多数の来賓をお招きし、盛大に開催/②279名(平成25年度時点)

島根県

島根県は年1回、総会・懇親会を実施。また、保護者会とも交流を図り、大学の現状や在学生の状況に関する情報交換も行っています。

報告事項 ①a) 総会・懇親会 b) 保護者会との交流 c) 出雲大学駅伝大会ののぼり設置及び応援 d) 懇親会(保護者会と連携して)[10月] e) 若者会懇親会 f) 女子部会/②240名/③約30名

岡山県

岡山県は県内を5つの地区に分け、各地区で毎年1、2回、懇親会を開催しています。また、毎年1回、7月に県全体の総会を5地区のうち、会員数の多い3地区で会場を持ち回りにして開催しています。

報告事項 ①a) 総会 b) 教員採用試験対策研修会:教育実習に合わせて、毎年1回6月に開催 c) 教育実習巡回指導:特別講師として毎年、中学校、高等学校の管理職経験のある同窓会員を2-3名派遣 d) 保護者会役員会・総会:同窓会会長、事務局長が協力・参加 e) 同窓会親睦ゴルフ:毎年1回開催。平成25年度に18回目を迎える f) 岡山県女子同窓会:平成18年度から「中国・四国女子同窓の集い」へ毎年参加者を募り、その参加をもって県の女子同窓会に代える g) 県人会:保護者会の主催で平成12年度より毎年1回、横浜・健志台キャンパスの近くを会場にして2月-3月に開催。卒業後の同窓会への参加の呼びかけ、教員採用試験に関する資料の配

布、体育教師を目指す心構えの教示をする。平成25年度は学生8名の他、保護者1名が参加/②約700名(登録データより故人を除いた数)/③46名(平成26年度)

広島県

毎年広島市で総会・懇親会を開催。平成26年度からは、保護者会との連携による懇親会を開催し、保護者の皆様に大学や在学生の現状をお伝えするよい機会としています。

また、在生及び保護者、卒業生の就職・採用活動に対する意識の向上を図ることを目的に就職指導会を実施。さらに、教員採用試験に合格した学生に対しては、臨時採用教員や時間講師等を斡旋し、企業への就職を希望する学生に対しては、積極的に会社を紹介し3名の内定を得ることができました。

報告事項 ①a) 総会・合同懇親会 b) 保護者会総会出席・合同懇親会 c) 女子部総会:隔年開催 d) 就職指導会:参加者35名 e) 就職斡旋活動/②約990名/③35名

山口県

報告事項 ①a) 総会[7月5日・防府グランドホテル]:毎年8月第1土曜日に、県内8支部の輪番で実施 b) 各支部総会:県内8支部の支部総会を適宜実施 c) 親睦チャリティーゴルフ[10月18日]:毎年10月中旬に、総会の幹事地区が企画。参加者から会費を集め、山口県体育協会に賛助会費として納入 d) 就職対策研修会[平成27年1月30日]:毎年1月に県の事務局が上京し、学生を集めての就職対策研修会及び山口県人会を開催。就職対策研修では、山口県教員採用試験や教員以外の進路先の情報を伝える。県人会は、山口県人の絆をより深めることを目的として実施。なお日程調整、会場手配は4年生の学生幹事により行われている/②約700名(うち年会費納入者約300名)/③46名(男子39名、女子7名)

香川県

本県は県全体での2年に1度の総会、各地区(東讃・高松、中讃、西讃の3地区)においても毎年、総会、懇親会が行われています。また、保護者会へ出席し、就職活動の状況報告、保護者との意見交換も行っており、平成26年度は、本県の課題である同窓会員の獲得についても協力を求めました。その結果、若干名ではありますが入会者が増員。同窓会員のネットワークのおかげだと感謝しています。

報告事項 ①a) 教育実習生激励訪問(関係学校)[6月] b) 保護者会出席[7月]:就職活動について県会長より講話 c) 卒業生の異動調査[12月] d) 役員会[12月] e) 保護者会との連絡会[12月] f) 県人会[1月] g) 各支部総会[2月]

徳島県

徳島県では、会員相互の資質の向上と親睦を図るとともに、保護者会とも緊密な連携を

とりながら同窓会活動の活性化を目指しています。

現在、本県から体育系大学への進学者が近畿圏や中京地区に集中する傾向がありますが、母校日体大への進学者を増やす支援を今後の課題として考えています。

報告事項 ①a) 就職対策学習会(学生対象)[6月、7月] b) 教育実習生直前指導 c) 女子部研修会 d) 就職対策保護者研修会(保護者、卒業生、学生合同)/②196名/③84名(平成25年度。「中国・四国女子同窓の集い」と同時開催)、22名(平成26年度)

愛媛県

報告事項 ①a) 総会・懇親会[6月7日・松山国際ホテル]:物故者への黙祷、会長挨拶(五島会長)、来賓挨拶(土井敏正同窓会副会長、高橋流星日体大助教)、協議(事業報告、会計報告、教育実習生紹介、事務連絡)、懇親会 b) 過年度生就職対策事業並びに就職対策事業(在学生)[6月7日・松山国際ホテル] c) 保護者会[7月21日・東京第一ホテル]:県会長、教育実習特別講師、企業人代表、事務局長が参加 d) 愛媛県人会並びに就職対策研修会[3月21日・東京・世田谷キャンパス]:現役学生15名と、教育実習特別講師、事務局長、平成26年度公立高校採用試験合格者の3名が愛媛県から参加。平成26年度県人会会長、副会長の選出、就職対策のための愛媛県同窓会の活用案内や愛媛県教員採用試験等の説明を行い、その後、懇親会を開催。今回が3回目であり、愛媛県同窓会事務局より案内を学生に送付することで年々多くの参加がある。保護者会にも参加の依頼をしている/②380名/③80名



総会・懇親会にて、全員で寮歌・校歌を熱唱

高知県

高知県は県全体で総会、研修会、懇親会、親睦ゴルフなどを行っています。また、教育実習生の事前指導や教員採用選考審査の傾向と対策に関するセミナーなども開催しています。

報告事項 ①a) 高知県公立学校教員採用選考審査に向けての学習会:教職志望者については、一般教養、専門教養(保健体育)について、演習問題を中心に傾向と対策を教授する他、学習指導案作成の演習講義を行い、面接試験についても重要なポイントの徹底と模擬面接を行う。なお、平成27年度高知県公立学校教員採用候補者名簿登載者は3名(中学校1名、高等学校2名)/②393名/③総会30名、懇親会28名

九州ブロック

福岡県

我が福岡県は、本田会長のリーダーシップの下に、平成22年度から日体生としての誇りと旗幟鮮明の心意気でつながりを大切にしていこうと、中部、北部、南部、筑豊の4支部合同の総会行事の実施や「先輩、君・さん呼び」の励行等の取組みを行っています。その成果もあって、総会行事には若手会員や企業人会員も数多く集まるようになり、同窓生の絆を深めるとともに、スリーピング会員の掘り起しが幅広い年齢層で図られています。



同窓会「福桜会」での熱気あふれるエッサッサ

報告事項 ①a) 総会・懇親会 b) 4地区別各総会・懇親会:計約250名が参加 c) 県合同研修会:県総会に併せて実施 d) 教員採用試験対策「グループ體窓」:年2回開催。うち1回は実技研修。平成26年度は18名参加。2次試験対策等、別途個人指導も継続的に行っている e) 学校管理職者研修会「桜友会」:1泊2日で開催。ゴルフコンペ付き。会員数98名。毎年約30名参加 f) 女子部会:3年に1度、1泊2日で開催 g) 企業人部会:年1回開催 h) 県役員会:年2回、臨時1回 i) 絆委員会:年2回/②登録会員500名(同窓生総数約1500名)/③165名(うち平成元年度卒以降参加者73名)

佐賀県

佐賀県同窓会は、平成26年度役員改選を行い、古賀和彦前会長から尾形孝則会長へと引き継がれました。会員は役員会、企業部会、女子部会に分かれ、県内を佐城、鹿島・武雄、三神、唐松、伊西の5地区に分割。全体総会(6月開催)を各地区持ち回りで開催しています。また、保護者会総会に出席し、就職活動、同窓会員の入会に関し、連携強化に努めています。さらに、在学生と卒業生を対象とした研修会では、同窓の先輩方を招いての就職活動の講演会を開催し、親睦を深めています。

報告事項 ①a) 総会・懇親会(全県) b) 地区懇親会 c) 進路対策研修会:教員採用試験、企業就職への対策 d) 教育実習:特別講師による事前指導、及び巡回指導時における指導 e) 入試対策研修会:本県からの日体大入学者を増やす対策として現在、検討中/②約300名

長崎県

平成26年度の研修会では、松浪健二郎法人理事長をお招きし、「日本体育大学の将来」

と題した講演をいただきました。将来を見据えたこれからの日体大のあるべき姿、グローバルな視野と国際的により高度な技術・専門性を持ち合わせる学生を育て、「世界一の体育大学」を目指して邁進するという強い意志が感じられました。参加した同窓生は、松浪法人理事長の言葉のひとつひとつに感銘を受けているようでした。総会、研修会、懇親会の参加者も少しずつですが増えてつあり、これからも内容の濃い総会、研修会になるよう事務局も頑張っていきたいと思えます。

報告事項 ①a) 教育実習巡回指導 b) 保護者会出席 c) 役員・代議員会議 d) 教育実習巡回指導反省会 e) 総会・研修会/②369名/③73名

大分県

年に1度、総会・懇親会を開催していますが、平成26年度は総会に先立ち、本県出身でもある荻浩三日体大アドミッションセンター長に、大学入試制度について説明していただき、大学の現状等について研修を行いました。

報告事項 ①a) 総会・懇親会 b) 保護者会への講話:OB・OGを講師として派遣し、教員採用試験に向けた対策や企業への就職対策等について教示/②約500名/③80名

熊本県

熊本県では、総会・懇親会への参加者が少なく、寂しい思いをされている方もいらっしゃいますが、平成26年度の総会では、人吉支部長であり、イタリアでのカヌー2014ワイルドウォーター世界選手権日本代表として出場した大瀬修平君(平成9年卒。熊本県立球磨工業高校勤務)が、「これからも日体大卒業生として、現役を続けながら、多くの後進を育てていきたい」と力強く語ってくれました。

今後も、会員の方々が総会に、ぜひ参加したいと思っていただけるよう、工夫改善をしていきたいと思っています。

報告事項 ①a) 「九州女子同窓の集い」IN山鹿[平成25年2月22日・山鹿市富士ホテル] b) 九州地区協議会 第1回九州企業人サミットIN熊本[6月14日・ホテルオータニ熊本] c) 熊本県支部大同窓会[10月25日・ホテルオータニ熊本] d) 教育実習激励会と保護者会において、教師としての使命感を説く講演会や、企業人の講話会等を開催/②800名/③84名

宮崎県

我が宮崎県は、現在、同窓会活動の活性化を目標に掲げ、まずは総会出席者の増員を図るべく、後藤会長を中心に役員会を複数回開催するなど、取組みを強化しております。

なお、保護者会総会、教育実習生の指導、学生県人会(就職対策研修会)[平成27年3月8日]等を通じて保護者及び在学生との結びつきを強化するとともに、同窓会活動への理解と協力をいただいています。

また、女子部会は米田ゆかり(旧姓:瀬尾)女子部長が中心となり準備を進め、「九州女子同窓の集い」[平成27年2月21日]を開催。宮崎県同窓会全体でバックアップしました。

さらに、企業人部会は、熊本県で開催された「第1回九州企業人サミット」への参加等を踏まえ、佐野企業人部会長を中心に組織強化をスタートしました。

報告事項 ①a) 総会・情報交換会・懇親会[7月5日・宮崎市 ホテルひまわり荘] b) 役員会 c) 保護者会出席 d) 特別講師による教育実習生指導 e) 県人会(就職対策研修会) f) 女子部会(役員会) g) 企業人部会(役員会)/②約400名/③35名

鹿児島県

平成26年度の県内同窓会では、本田和人同窓会副会長から、全国同窓会、九州地区同窓会の現状や課題等についてお話をいただき、中村学史日体大アドミッションセンター事務長補佐からは、大学の現状や入学試験概要について説明をいただきました。また、下記のような様々な活動を展開。平成26年度からは新たな事業として、「若獅子の会」(平成卒の同窓の会)を企画し、27年2月28日に開催しました。

報告事項 ①a) 総会[7月5日・鹿児島市勤労者交流センター] b) 鹿児島県出身学生やOB・OGの就職支援 c) 母校発展のための援助 d) 体育・スポーツに関する講演会 e) 会員相互の親睦及び情報提供:会報誌「エッサッサ鹿児島」の発刊等 f) 岩出雅之先生(帝京大学ラグビー部監督、昭和55年卒)の講演会:総会終了後に開催。会員及び鹿児島工業高校ラグビー部の生徒等、参加者約80名/②200名/③懇親会52名

沖縄県

毎年沖縄県においては、会長の大城武則を中心に総会を開催。総会参加者の増加という課題はありますが、同窓生のネットワーク拡大、活動の活性化を目指し、企画しています。

平成26年度総会では、会長挨拶をはじめ、会則の再確認、参加者による活動報告(企業人・全国事務局長会議、大学入試情報、県内外競技実績報告など)が行われましたが、本県同窓生による、各分野の活躍内容(高校生指導者としての全国制覇、オリンピック候補選手の育成など)は素晴らしく、改めて日本体育大学の卒業生・同窓生としての「誇り」を感じることができた総会となりました。今後もその「誇り」をお互い共有できるように、役員一丸となって同窓会沖縄県支部の発展に寄与することを誓い合った次第です。遠方ではありますが、全国同窓会と連携を密にして頑張ってもらいますので、ご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

報告事項 ①a) 総会[12月6日・那覇市]

同窓会誌発行協力金について——お礼

「日體人」第2号(2013年10月発行)にてお願いしました協力金につきまして、
これまでに約700名の方々からご支援をいただきました。
この場をお借りして、皆様方の御協力に厚く御礼申し上げますとともに、
感謝の意を込め、お名前を記させていただきます。

島田房孝、梅本俊芳、谷村豊志、大井喜曹子、森重甫、青砥良行、井元文治、永田生江、小野博、大塚昇、宮崎清美、松本敏和、三宅照子、熊野忠敬、小池春雄、吉田邦子、松浦康則、下山田榮、佐藤暹、稲垣安二、宮崎美達、山本芳男、北和雄、荒川御幸、尾田政雄、桑波田稔、村尾冬雄、小西益治、伏見士郎、草刈隆二、金当国臣、豊田博、阿部智、川中弘幸、岬一夫、酒井好子、黒江實親、小森信三、田中太、田宮敬之助、池永武昭、竹本正雄、米山治三、山本猛、石川富子、佐々木靖、安井清彦、碓井進、小尾宏子、光下正康、野村秀治、山中博夫、沼端建一、岡野年江、田代信義、小原倫雄、千田寛、福井正幸、柏原幸生、石川光男、池田剛、湊光雄、穴道泰玄、田村芳夫、小川紀子、小田林徹郎、伏田美香、渡部晴行、関桂一郎、永嶋龍次、森山佳代子、安部ヒデ子、坂井計、宮崎正恵、向本一行、小川義久、飯田文男、佐藤富美子、岸本正智、齋藤美恵子、徳前啓人、伊藤帆浪、高橋連子、天間ウメ、井山勝子、浅井大忠、青山晴雄、津田美江子、内海善子、平松博、中本厚生、山形良悦、高見諭、西村一信、田中睦子、小島勇夫、塩谷伸晴、増田隆邦、西堀富子、高橋武史、松田憲明、伊藤シズ子、宮澤恒夫、塩崎親宏、仁谷秀夫、松本紘一、外巴照、榎本和男、成田昭紀、渡辺和夫、井山充弘、田中昭江、田平一暁、田中啓之、藤川次朗、山川昇、西川美代子、小川英男、齋藤忍、奥田雄一、須藤宏、高嶋章、赤塚辰郎、金森幸志、中島和子、荏司昭夫、河野美樹雄、木村政美、植竹靖夫、鈴木洋一、高田敏晴、高田澄子、長崎桂子、中島晴規、土井敏正、村上南海江、坂理泰幸、平野義明、川村俊明、石川静哉、重枝和洋、櫻井勝利、渡部治人、久米直、芦田良子、泊泰三、太下晃弘、天野博臣、山本洋子、井上靖、山田靖志、高嶋章、串間平三郎、平田徹、岩水八十八、杉村伶、越水清、倉重泰夫、市川郁子、齋藤勝雄、藤田八郎、中嶋雅己、岡本進、下内義光、奥原滯子、久保田博三、鈴木洋祐、佐藤誠、坂元興蔵、田畑忠興、渡部俊夫、阪本勝彦、渡辺靖祐、栗田崇、森山佳勇、倉松恒子、鈴木征紀雄、安保忠和、佐々木裕子、森田純造、西原俊晴、泉澤正直、城戸啓一郎、佐藤忠雅、木戸勇、赤石眞一、三上史史、長井忠道、鳥居雅夫、大野隆夫、金築健二、江藤孜、安達節子、村田陽、田村正克、飯田加代子、三浦光雄、青木宏治、伊藤義男、野呂進、鶴丸英昭、草薙駿、吉村辰明、北野慧子、高田和男、安藤一、里村利也、平岡崇、荻野確郎、塩田博、池田修二、高橋和志、松尾和恵、上野三郎、作本敏彦、古本幸治・文恵、伊藤初男・厚子、篠幸信、椋山伸也、河崎和代、齋藤緑、大塚三男、成田道子、谷川原勝則、安西美紀子、津熊美智子、渡邊正昭、本庄義治、

楠正彦、山田徹、倉岡克栄、谷藤勝美、玉井達明、齋藤芳樹、向井廣志、松永憲則、堀川政子、齋藤和子、武田憲治、江口正信、志々場修二、本田和人、高田直昭、小松幸円、大嶋誠、中森繁、出射省一、栗本妙子、高寄十郎、飯泉恵美子、前川和三、半田広、柿島誠一、関根繁、小嶋啓道、渡邊久世、黒木徳男、多胡英里子、野津博雄、三瓶克伸、熊谷二三雄、佐藤武夫、荒木和恵、竹田幸博、小澤欽一、小道具廣海、小林義雄、藤原均、青柳典美、高屋英人、西岡英明、今堀公夫、益山厚、小林修平、鈴木信博、佐々木良行、片山昇、福士正敏、宇佐美義和、金子良雄、園田竹志、徳永隆治、柳岡政一、栗原栄、出口庸介、佐尾山ゆき、太田徹、熊谷勉、香川博、丹田克己、吉岡成、園田有司、成田晴光、方井正隆、菅野由美子、大崎廣子、松山成昭、佐藤清俊、宮川潤司、山本均、竹谷満、望月亮、宮本香代子、小林公正、真壁正、永井寛、新見伸子、辻鎮雄、山本京助、平賀賢誠、菊池成俊、辻潤治、榎下博、関毅彦、佐々木聖子、細田昇、作本耕二、高橋哲夫、井上栄子、大輪仁、佐々木厚、宮下淳、平賀玲子、鈴木清次郎、鈴木知則、小野寺弘行、坂本正文、角谷全史、塚田幸司、畠中和樹、竹原敏郎、中野正巳、荒野恭子、荒野吉之、折本浩一、埴岡俊一、細谷正信、市川雄一、中村一志、伊藤新也、中村正志、佐藤喜和子、鈴木淳一、山田健一、小野澤宏、檜山暢尚、岸登志子、小須田良子、池田三郎、細内正彦、佐々木章文、青島純夫、伊藤一志、佐々木茂雄、上田智加子、喜島浩介、福元修三、大西和雄、吉元和枝、宅間信夫、谷藤玲二、柴田一則、藤代弥瑞子、小笠原聡、福元由子、新井美佐子、大西恵子、志賀築子、森山昌司、佐藤啓司、浅沼卓、小澤信一、大西修、加納修、中禮雅治、佐々木亘、安原幸男、鬼川美佐子、高橋靖直、尾崎一徳、石井千代美、佐川和則、今井芳治、大越洋一、伊藤公英、高橋佳奈、三柴博實、田端秀行、渡部千鶴子、上笠淳二、滝沢伸祐、瀬古忠永、原勝人、齋藤好史、横山香月、川本有美、齋藤稔、藤原照明、村上雅明、中村文、辻寿子、島田直紀、保手演和益、村上光太郎、谷川勝彦、田海哲也、山本暢三、園尾昌博、野口哲司、柴田美枝、藤川睦・忍、大野芳樹、村上文文、高木和也、土居浩之、有村孝志、下條哲哉、新井寿哉、村崎利雄、白石有一、成田聡、川崎芳徳、久保敬、大浦朝美、馬場俊輔、菊池俊浩、滝沢宏人、福井英治、神川尚彦、菊池ゆかり、野中祐之、南謙二、藤川毅、角崎敏彦、中野賢一、坂野明彦、小原信、奥山晴美、深澤健、東のぶ美、平澤淳、中村欽哉、樋口裕志、宮本晋一、重森昇、三浦秀行、山田美紀、佐藤義徳、山下英男、田中敦司、竹内弘文、菊池伸、石川剛久、田上育志、天野浩人、金子佳幸、内田昌男、藤

本亮、宮本誠、西尾勝利、吉川公明、榎本一慶、佐々木竜也、栗澤朱美、岸野幹根、藤本浩、井本健吾、鈴木仁、太田勝之、佐藤聖子、金子英樹、泉博文、谷川原宏一、高橋知浩、久朗津義晃、高附安仁、後藤和己、小原卓、角井寿光、山野井進治、森能美、元尾教恵、中井秀雄、川田知範、福原博、松尾弘憲・佳子、坂本宏一、三田英郎、志賀宗徳、辰巳義信、幸坂将史、西謙太郎、植田悟、林貴昭、金子峰、田村智己、佐々木信吾、長津一博、森末耕太郎、及川竜玄、尾形潤、津志田静徳、布野隆文、澤田隆、紙谷猛、田中健二郎、山田泰史、川畑順哉、多田慎之介、松井則浩、三澤望、高田和直、上杉嘉紀、山口晴美、佐々木信広、志々場祐太、吉村健太、島田裕行、小船理香、越原祥栄、小林雄、岡本翼、藤久保裕之、今井佐智子、石田直子、大窪元、井上駿、小暮伸恵、小暮三恵、中園貴暁、森喜雄、寺尾尚之、岡田順治、藤原雄太、深瀬裕太郎、岩崎智輝、村田葵、竹内隆志、久保田善彦、梅原貴正、澤田佳士、安藤克弥、泉穂久斗、染谷咲希、堀江ひとみ、大森智仁、畠山静香、立道裕昭、森谷詢太、首藤文子、亀田絵里加、西田つばさ、澁谷憲昭、肥後勇介、古茶翔、大場妃恵、中久喜裕太、波多野静、宮原大地、松井章、藤田憲嗣、中村一雅、高橋鉄矢、信太弘樹、大村勇也、佐藤幸典、笠原步美、宮田往、小林太貴、嶋田康太、古澤大輔、幡谷聡、福本康宏、浅沼航平、深瀬敬二郎、丸山和男、辻孟彦、壁屋穂波、小野寺徹、深谷杏奈、池田大和、澁谷明伸、池田大志郎、奈良光基、谷口真登香、黒田大希、木村瑠衣、池田陵将、大日向巧、橋本ひかり、鈴木友也、小川俊、稲垣貴子、石賀涼平、山下裕人、井口拓也、相田健悟、山本敏史、今給黎将之、加瀬弘樹、小島一球、小川翔史、原田和樹、佐藤匠、金子紘大、扇塚延広、川崎奈都美、島本大佑、橋本祐伊知、中道章弘、松本京樹、松田佑樹、西盛大地、押田修平、小椋佳代子、本田茂・まりこ、河野さゆり、大久保隆、下和田翔平、四戸優美、下川菜摘、中野貴富、松永友里、大津あずさ、武末悠輝、新垣才門、富田銀仁、高橋良太、宮田沙依、益本悟、野見山卓也、鳥海絵里加、丸山駿介、泉山佑太、星はるか、早水勇、木村沙耶、田野倉翔太、千葉昇平、西田一平、下川清貴、佐々木魁士、鈴木亮平、宇野心、尾崎彩、高橋祐美子、新妻正子、澤井友貴、北村明日香、立石壮平、榎本紀業、下平貴斗、宮本紀澄、櫻井紫乃、大川隆樹、海谷卓見、遠藤有希、小貫雄介、田中文也、福本寿史、山谷由美子、田中宏子、柴田勝夫、富樫義史、池上香苗、竹間容祐、塚田泰志、古川雄悟、石川めぐみ、山村幾子、浅田雅子、榎原義弘・泰子

同窓会誌発行協力金のお願い

今回の「日體人」発行にあたり、同窓会活動と母校の近況をお知らせするとともに
会員相互の親睦を図るため、会員に直接お届けすることとしました。

つきましては、次年度以降の誌面充実に向けて、引き続き協力金(2000円)を募りますので、ご協力をお願い申し上げます。

同封の振込用紙に必要事項をご記入のうえ、通信欄に「卒業年(〇〇年3月卒業)」をお書きいただき、
郵便局よりお振込くださるようお願いいたします。

日本体育大学同窓会

編集後記

新体制で始動した同窓会。課題山積の中、創立125周年(2016年)、2020年へと続く。今号ではトッリーダーの心意気、都道府県支部の取組み、実演会地方大会などを中心に紹介。寄稿協力をいただいた皆様には心から感謝申し上げます。

本誌を通じて日体ファミリーの「つながりの再構築」が図れば幸いです。次号はさらに心を打つ誌面になるよう委員一同努めてまいります。ご意見・アイディア等があれば是非お寄せください。

広報委員会



AEON CUP 2015

煌びやかな美の競演。

イオンカップ2015 世界新体操クラブ選手権

2015.10.2FRI-4SUN 東京体育館

AEON CUP 2015

知の名門 技の強豪 美の創造

総合コース

体育コース

文理コース



学校法人日本体育大学日体荏原高等学校

〒146-8588 東京都大田区池上8-26-1 TEL03-3759-3291 Fax03-3759-3614

<http://www.nittai-ebara.jp>



日本体育大学進学実績第1位！【生徒寮完備】



学校法人 日本体育大学 柏日体高等学校



健信寮

平成 27 年度 7 月 新校舎誕生

難関大学現役合格にチャレンジ
アドバンストコース

夢の実現に向けステップアップ
進学コース

未来のスポーツリーダーを養成
アスリートコース

平成 27 年度 日本体育大学進学者 50 名

Kashiwa Nittai High School 2015

株式会社日体サービス

(学校法人日本体育大学 100%出資)

学生サポートデスク(日体サービス)は、日体グループのみなさんをサポートいたします。

学生サポートデスク(日本体育大学 東京・世田谷キャンパス内)の取扱品目一覧(抜粋)

アパート・
学生マンション紹介

格安航空券
国内・海外のお買い得満載!

資格取得学校
学生サポートデスクでお申込み頂くと特典あり

一人暮らしサポート
不安や分からないことを解消

高速バス
夜行高速ツアーバス予約

英会話・留学
予算などお気軽にご相談ください

引越取次
目的・場所・量に合わせたプランをご提案

長期滞在宿泊施設
快適♪お得♪

運転免許
通学・合宿もお得

宅配買取サービス
お家で簡単!日体大優待も!

受験生の宿
交通の便が良い宿などご案内

オフィシャル名刺
日体大ロゴ入り名刺

▶▶▶ 詳細なお問い合わせは

日体大学生サポートデスク

検索

☐ TEL:03-6893-2221 ☐ FAX:03-5707-1130 ☐ E-mail:gakusei@support-dsk.jp

※営業時間 9:00~17:00(月~金) ※休業日 土・日・祝日



<http://watanabe-butsumaru.jp/>



FS 90643 / ISO 9001
EMS 90645 / ISO 14001

RST 591404 / ISO 39001

ISO 9001 (品質)
ISO 14001 (環境)
ISO 39001 (道路交通安全)

株式会社 渡邊物流

- 本社
栃木県真岡市大谷本町12番地22
- 鬼怒ヶ丘営業所
栃木県真岡市鬼怒ヶ丘1丁目15番地3
TEL 0285 (83) 6031 FAX 0285 (83) 6134
- 寺内営業所
栃木県真岡市寺内1588番地5

なつかしい母校のグッズをお手元に、いかがですか？

同窓会グッズ

※価格はすべて税込です



[ゴールド]

[チョコ]

- ① テディベア(チョコ/ゴールド) Lサイズ(約25cm) 各2,500円
- ② テディベア(チョコ/ゴールド) マスコットサイズ(約9cm) 各1,000円



- ③ クッキー(9枚箱入り) 600円



- ④ クッキー(19枚箱入り) 1,000円



- ⑤ エッサッサくんストラップ(ブルー/オレンジ) 各500円



- ⑥ スポーツタオル(約105cm×34cm) 1,000円



- ⑦ ボールペン(4色+シャープペン) 500円



- ⑧ ゴルフボール 2,000円



- ⑨ マグカップ 1,000円



- ⑩ マフラータオル(約115cm×20cm) 500円

購入方法

同窓会グッズの購入を希望される方は、FAX(ホームページに書式もあり)あるいはハガキに下記必要事項①～⑤を明記して、同窓会事務局までお申し込みください。

※商品の仕様・デザインは都合により変更することがありますので、ホームページにてご確認ください。また売り切れの際は、ご容赦ください。

◆必要事項

①お名前 ②ご自宅住所 ③電話番号(日中) ④商品番号と商品名(色・箱入り枚数)、個数 ⑤合計金額

※ご自宅以外への発送を希望される場合は、発送先ご住所・電話番号も併せてご記入ください。

◆送料について

商品は、着払いの宅急便にて発送させていただきますので、送料をご負担ください。なお、商品によってはメール便・レターパックにて発送することも可能です。お電話にてご相談ください。

◆代金のお支払いについて

代金は先払いとなります。FAXあるいはハガキにてお申し込み後、「みずほ銀行」または「ゆうちょ銀行」の下記口座へお振り込みください。入金確認後、2週間以内に商品を発送させていただきます。なお振込手数料については、ご負担ください。

みずほ銀行 世田谷支店 普通 8102510 日本体育大学同窓会

ゆうちょ銀行 振替貯金(振替口座) 00110-5-604219 日本体育大学同窓会

※ゆうちょ銀行の場合、入金確認に数日(3日～5日程度)かかりますので、あらかじめご了承ください。

[お申し込み・お問い合わせ先] ※お電話でのお申し込みはできません

日本体育大学同窓会

〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1 日本体育大学内

電話：03-3704-0266 FAX：03-3704-1817

URL：http://www.nittai-club.com/

表紙写真「富士に献花」：伝統を踏まえながらも、型破りな構成と大胆な色使いで日本画に新風を吹き込んだ片岡球子が原画を描き、明治から昭和にかけていくつもの宮殿の内装を手掛けた名門・川島織物セルコンが作成した緞帳。平成25年3月末を以て閉場した名古屋の歌舞伎劇場、御園座より日本体育大学に寄贈された。綴れ織製で金糸がふんだんに使われている名品(24m×7.5m、1屯)。(東京・世田谷キャンパス)

題字 | 学校法人日本体育大学理事長 松浪健四郎